

ぬま り たてあと
沼里館跡

— 都市防災総合推進事業（公園整備）関係発掘調査報告書 —

2018.3

岩手県宮古市教育委員会

ぬま り たてあと
沼里館跡

－都市防災総合推進事業（公園整備）関係発掘調査報告書－

2018.3

岩手県宮古市教育委員会

序 文

本州最東端に位置する岩手県宮古市には、現在 680 箇所の遺跡が分布し、縄文時代から現代まで連綿と続く先人達の営みが数多く残されています。市教育委員会ではこれらの遺跡を後世に伝え残していくために周知と保護・保存を行っております。なかでも開発工事等により発掘調査された遺跡については、記録として保存し、さらに出土した土器や石器などは体験学習や企画展示に活用しております。

本発掘調査報告書は、都市防災総合推進事業（公園整備）に伴い実施された沼里館跡の内容確認調査及び試掘調査の結果をまとめたものです。平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災により住宅地が冠水した津軽石地区における避難道路や避難公園の整備事業の 1 つとして実施されました。

内容確認調査は、従来から知られていた中世の館の主郭部分が調査対象で、調査の結果、柱穴が多数検出され、掘立柱建物跡を確認することができました。出土品はありませんでしたが、これらの建物は館の主郭機能に付随するものと考えられます。さらに試掘調査では、空堀の跡も検出されました。

中世館跡の主郭部分の発掘調査は、市内では類例が少なく、その建物構造や配置などに貴重な知見を得ることができました。今後、縄張り図との比較検討を行い、中世宮古の歴史を物語る資料の 1 つとして活用されることを期待いたします。

最後になりましたが、調査にあたりまして御指導、御協力いただきました関係各位に深甚なる謝意を表し、厚く御礼申し上げます。

平成 30 年 3 月

宮古市教育委員会
教育長 伊 藤 晃 二

例 言

1. 本書は都市防災総合推進事業（公園整備）に伴う沼里館跡の発掘調査報告書である。
2. 調査主体は宮古市教育委員会（教育長 佐々木敏夫（～平成25年度）、伊藤晃二（平成26年度～））である。内容確認調査及び試掘調査は文化課の長谷川、大阪府堺市派遣職員北野が担当し、本書の執筆・編集は文化課の長谷川が担当した。その他、大阪府堺市派遣職員北野及び文化課担当職員がこれを補佐した。
3. 調査座標については、公共座標第X系を基準としたものである。座標値は $X = -46,000.000\text{m}$ 、 $Y = +94,000.000\text{m}$ を原点とした。また、図版中は調査用の局地的な座標であることを明示するためにRを冠した。断面図における水準標高は海拔標高を示す。
4. 土色及び土質の観察は『新版標準土色帖』（小山正忠、竹原秀雄編著 2001年度版）を基準とし、図版中において土層観察表で表示した。遺物の観察は全て肉眼観察により行い、遺物観察表としてまとめている。
5. 図版中のスクリーン表示は図版中で定めない限り以下の通りである。
遺構図版： 石  焼土  地山
6. 遺構図版の縮尺率は、原則として1/100と1/50、内容確認調査遺構配置図は1/250とした。また、各図版のスケール上に縮尺率を明示した。遺物図版の縮尺率は、土器・石器ともに1/3とした。なお、図版中のPはピット、SBは掘立柱建物跡の略称である。
7. 復興調査である今回の内容確認調査及び試掘調査に際し、次の方から発掘調査・整理作業において多大なご支援をいただいた。記して感謝申し上げます。
北野俊明（大阪府堺市派遣）
8. 本書に収録した調査記録及び出土資料は、宮古市教育委員会で保管している。

目次

序文

例言

目次 図版目次 写真図版目次 表目次

第1章 調査に至る経緯	1
第1節 調査に至る経緯	
第2節 調査体制	
第2章 立地と環境	3
第1節 宮古市の位置と遺跡の環境	
第2節 周辺の遺跡	
第3章 調査の方法	7
第1節 調査方法	
第2節 調査経過	
第4章 内容確認調査	10
第1節 基本土層	
第2節 掘立柱建物跡	
第3節 焼土遺構	
第5章 試掘調査	21
第6章 まとめ	35
引用・参考文献	
報告書抄録	49

図版目次

第1章 調査に至る経緯

第1図 沼里館跡 位置図 (1) 2

第2章 立地と環境

第2図 地形分類図 4

第3図 地質図 5

第4図 周辺の遺跡分布図 6

第3章 調査の方法

第5図 沼里館跡 位置図 (2) 7

第6図 調査区周辺地形図 9

第4章 内容確認調査

第7図 調査区全体図 11

第8図 調査区遺構配置図 12

第9図 調査区壁面 断面図 (1) 13

第10図 調査区壁面 断面図 (2) 14

第11図 1号掘立柱建物跡 平面図・断面図 . 18

第12図 2号掘立柱建物跡 平面図・断面図 . 19

第13図 3号掘立柱建物跡 平面図・断面図 . 20

第14図 内容確認調査 出土遺物 20

第5章 試掘調査

第15図 試掘調査トレンチ位置図 22

第16図 A・B・Cトレンチ 平面図・断面図 . 25

第17図 B・Cトレンチ 断面図 26

第18図 Dトレンチ 平面図・断面図 28

第19図 E・Fトレンチ 平面図・断面図 . . . 29

第20図 G・Hトレンチ 平面図・断面図 . . . 30

第21図 Iトレンチ 平面図・断面図 31

第22図 Jトレンチ 平面図・断面図 32

第23図 K・Lトレンチ 平面図・断面図 . . . 33

第24図 Mトレンチ 平面図・断面図 34

第25図 試掘調査 出土遺物 34

第6章 まとめ

第26図 掘立柱建物跡 位置模式図 35

10	1号焼土遺構 検出状況 (南→)	42
11	柱穴検出 (2号掘立柱建物跡 p 8) (南→) .	42
12	柱穴検出 (1号掘立柱建物跡 p 2) (南→) .	42
13	柱穴検出 (2号掘立柱建物跡 p 10) (東→) .	42
14	炭化物分布範囲 検出状況 (東→)	42
15	内容確認調査区 土層堆積状況 (南→) . . .	43
16	内容確認調査区 土層堆積状況 (南→) . . .	43
17	内容確認調査区 主郭南端盛土造成 (南→) .	43
18	内容確認調査区 主郭南端盛土造成 (東→) .	43
19	内容確認調査区 Aトレンチ北端 (南→) . . .	43
20	内容確認調査区 Aトレンチ北端 (北→) . . .	43
21	内容確認調査区 Eトレンチ (東→)	43
22	内容確認調査区 Fトレンチ (東→)	43
23	内容確認調査区 土層堆積状況 (東→) . . .	44
24	内容確認調査区 基本土層Ⅱ層掘り下げ (東→)	44
25	内容確認調査区 埋め戻し状況 (南東→) . .	44
26	内容確認調査区 埋め戻し状況 (北→) . . .	44
27	試掘調査区 A～Cトレンチ調査風景 (東→)	44
28	試掘調査区 Aトレンチ空堀検出 (西→) . . .	44
29	試掘調査区 Bトレンチ空堀検出 (北→) . . .	44
30	試掘調査区 Cトレンチ空堀堆積 (北→) . . .	44
31	試掘調査区 Aトレンチ調査風景 (西→) . . .	45
32	試掘調査区 Aトレンチ調査風景 (西→) . . .	45
33	試掘調査区 Bトレンチ堆積 (西→)	45
34	試掘調査区 Cトレンチ堆積 (東→)	45
35	試掘調査区 Dトレンチ (北→)	46
36	試掘調査区 Eトレンチ (北→)	46
37	試掘調査区 Fトレンチ (北→)	46
38	試掘調査区 Gトレンチ (南→)	46
39	試掘調査区 Hトレンチ (西→)	47
40	試掘調査区 Iトレンチ (西→)	47
41	試掘調査区 Jトレンチ (西→)	47
42	試掘調査区 K～Mトレンチ (西→)	47
43	内容確認調査・試掘調査 出土遺物	47

表目次

第1表	石器観察表	20
第2表	土器観察表	34

写真図版目次

1	沼里館跡 遠景 (東→)	39
2	沼里館跡 内容確認調査区 (A区) (南東→) .	39
3	沼里館跡 内容確認調査区 (A区) 調査風景 (南東→)	40
4	1号掘立柱建物跡 柱穴検出状況 (東→) . . .	40
5	2号掘立柱建物跡 柱穴検出状況 (東→) . . .	41
6	3号掘立柱建物跡 柱穴検出状況 (東→) . . .	41
7	1号掘立柱建物跡 柱穴断面 (東→)	42
8	2号掘立柱建物跡 柱穴断面 (南→)	42
9	3号掘立柱建物跡 柱穴断面 (東→)	42

第1章 調査に至る経緯

第1節 調査に至る経緯

沼里館跡は、岩手県宮古市津軽石第6地割に所在し、日露戦争戦没者慰霊の社殿や石碑が建立されている平坦部のほか、帯郭状の平坦部が、現況でも確認することができる。津軽石地区を見下ろす樹枝状に突き出た丘陵上に位置しており、南側の斜面は墓地として利用されている。復興事業である都市防災総合推進事業に伴う公園整備における遺跡の取扱いについて、協議した上で、平成25年8月23日付都第336号で文化財保護法第94条第1項の規定による「周知の埋蔵文化財包蔵地における発掘について」の通知が提出され、平成25年9月6日付教文第459号で岩手県教育委員会に進達している。それを受け岩手県教育委員会では、平成25年9月9日付教生第4-120号で「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について」勧告され、平成25年9月19日付教文第499号で宮古市長（都市計画課）へ伝達している。

内容確認調査・試掘調査の実施については、平成25年8月23日付都第337号で宮古市教育委員会教育長宛に依頼があり、平成25年10月11日に現地において、文化課と都市計画課で協議を行った。その協議を踏まえ、平成25年10月17日付教文615号で埋蔵文化財試掘・内容確認調査計画書を都市計画課へ提出した。平成25年10月21日から試掘・内容確認調査を開始し、調査対象面積約1,470㎡のうち約355㎡について、試掘トレンチを設定し、遺構の有無を確認した。調査面積の内訳は内容確認調査約285㎡、試掘調査約70㎡である。

その結果、内容確認調査では掘立柱建物跡3棟の他、切土・盛土造成跡や柱穴が確認され、試掘調査では空堀跡が検出された。それを受けて平成25年11月21日に文化課と都市計画課で現地協議を行い、空堀検出地点から内容確認調査地点にかけてはアスファルト舗装を行わない旨の回答があったため、本調査は実施しないことで決定した。試掘・内容確認調査は平成25年12月4日に終了し、平成26年3月31日付教文第1019号で調査結果の報告を都市計画課に提出した。

平成29年11月24日から資料整理作業を開始し、平成30年3月に埋蔵文化財発掘調査報告書を刊行した。

なお、都市防災総合推進事業の実施にあたって、地質調査のボーリングを行うため、平成25年11月11日付都第611号で文化財保護法第94条第1項の規定による「周知の埋蔵文化財包蔵地における発掘について」の通知が提出され、平成25年11月11日付教文第762号で岩手県教育委員会に進達している。それを受け岩手県教育委員会では、平成25年11月13日付教生第4-186号で「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について」勧告され、平成25年11月13日付教文第787号で宮古市長（都市計画課）へ伝達している。取扱いは慎重工事である。

第2節 調査体制

<平成25年度 試掘・内容確認調査>

調査主体 宮古市教育委員会 教育長 佐々木敏夫

調査総括 竹下将男 宮古市教育委員会文化課長

調査員	高橋憲太郎	//	文化課副主幹
	鎌田祐二	//	文化課副主幹
	加納由美	//	文化課主任文化財調査員
	布谷義彦	//	文化課主任文化財調査員

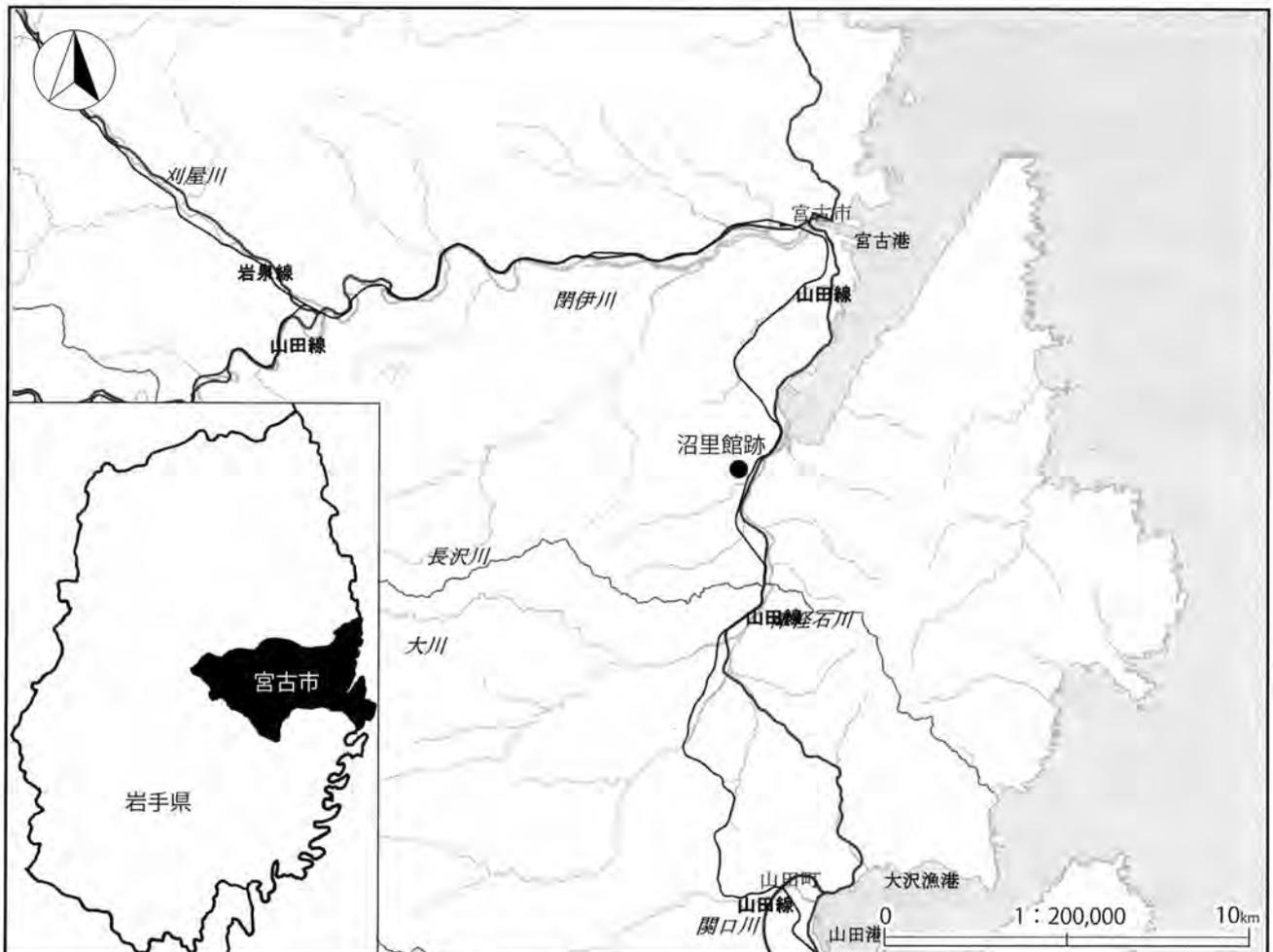
安原誠	宮古市教育委員会文化課主任文化財調査員
長谷川真	// 文化課主任文化財調査員 (調査担当)
江口邦泰	// 文化課主任文化財調査員
千葉剛史	// 文化課文化財調査員
阿部豊	// 文化課埋蔵文化財発掘調査員
前川友宏	// 文化課埋蔵文化財調査員
赤沼みちる	// 文化課埋蔵文化財調査員

<平成29年度 資料整理作業>

調査主体	宮古市教育委員会	教育長	伊藤晃二
調査総括	高橋憲太郎	宮古市教育委員会文化課長	
職員	鎌田祐二	//	文化課学芸係長兼埋蔵文化財センター所長
	安原誠	//	文化課主任文化財調査員
	江口邦泰	//	文化課主任文化財調査員
	長谷川真	//	文化課主任学芸員 (報告書作成担当)
	阿部豊	//	文化課埋蔵文化財発掘調査員
	前川友宏	//	文化課埋蔵文化財調査員
	赤沼みちる	//	文化課埋蔵文化財調査員

<発掘調査作業員・資料整理作業員> (50音順)

一関順子 上野律子 江口正光 越田真理子 小林功行 佐藤重信 野崎秀人 三浦功 村木幹子
 山根保行
 佐藤廣昭 (平成25年度教育部長、11月6日内容確認調査参加)



第1図 沼里館跡 位置図 (1)

第2章 立地と環境

第1節 宮古市の位置と遺跡の環境

岩手県宮古市は岩手県沿岸部のほぼ中央に位置し、西は盛岡市、北は岩泉町、南は花巻市・遠野市・山田町と隣接し、東は太平洋に面している。市域の総面積は約1,259.15km²、人口約56,000人の漁業と観光の都市である。平成23年3月11日の東日本大震災では、大津波によって多大な被害を受けたが、調査原因でもある本事業を含めた復興事業により、現在、新たなまちづくりを進めている。

市域の西側には標高1,917mの早池峰山を最高峰とする北上山地の山々が連なり、一方、東側は太平洋を望み、特に北東方向に突き出す重茂半島の鮎ヶ崎は本州における最東端となっている。三陸復興国立公園に指定されている宮古市の海岸には、国指定名勝「浄土ヶ浜」や国指定名勝「崎山の蠟燭岩」「崎山の潮吹穴」などがあり、岩手県随一の景勝地である。また、西側の山間部は早池峰国立公園に指定されており、国指定特別天然記念物「早池峰山及び薬師岳の高山帯・森林植物群落」、国指定天然記念物「アカエゾマツの自生南限地」などの自然豊かな景観をみることができる。

沼里館跡は、岩手県宮古市津軽石第6地割地内に所在し、津軽石川左岸に位置する樹枝状の丘陵の先端部に位置している。今回の調査地点は、丘陵上部の平坦面及び丘陵の緩斜面となっており、丘陵平坦面の標高は42m～40mで、木々の間からは津軽石地区や赤前地区の街並みを一望することができる。

第2節 周辺の遺跡

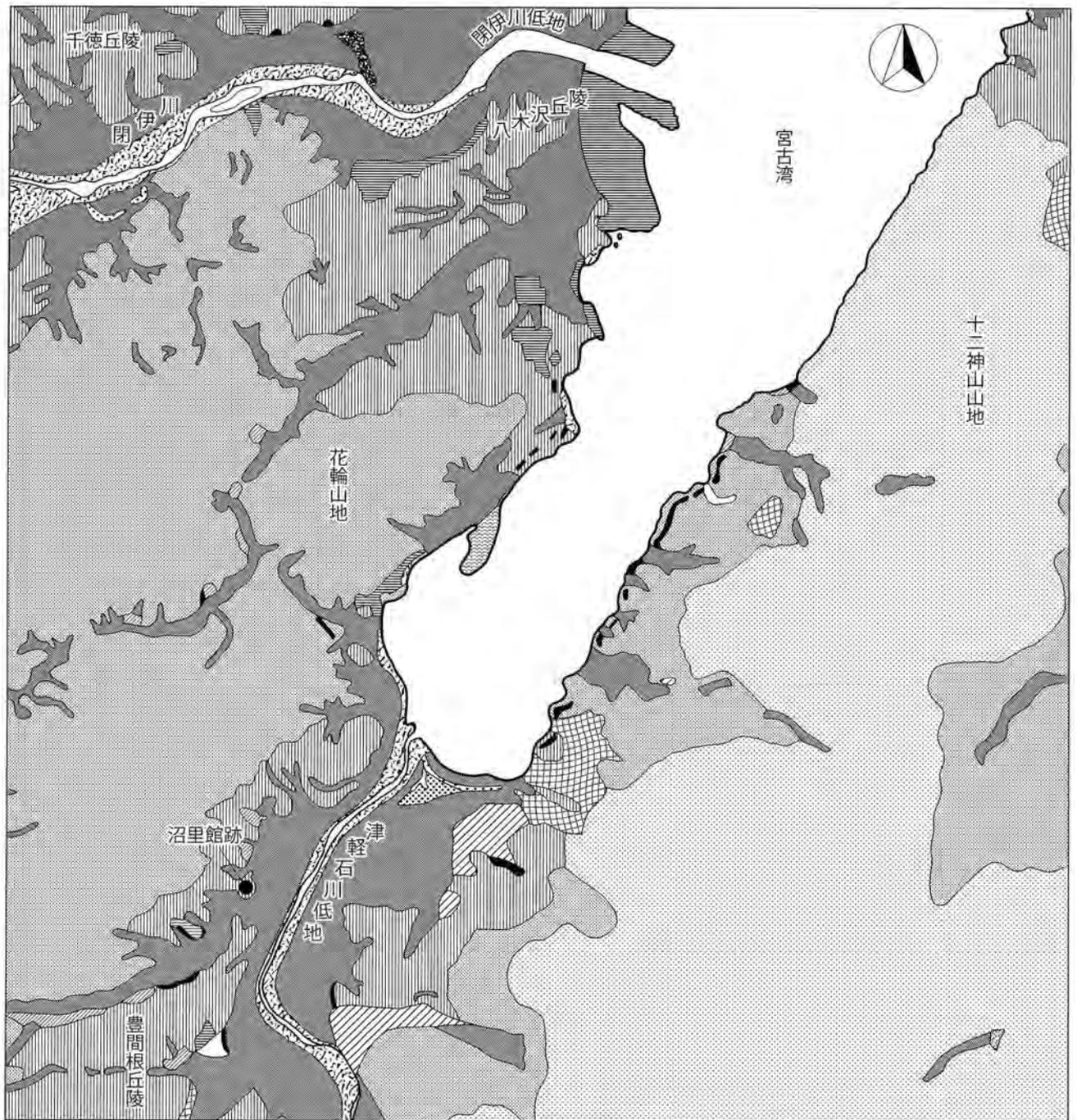
沼里館跡の周辺には、津軽石大森遺跡のほか、沼里遺跡、藤畑遺跡、弘川館跡などが分布し、丘陵尾根上や山裾の緩斜面上に縄文時代・古代の遺跡が数多く立地している。

周辺で発掘調査された遺跡としては津軽石大森遺跡や弘川館跡、藤畑遺跡が挙げられる。平成26年度に津軽石地区津波復興拠点整備事業に伴い発掘調査された津軽石大森遺跡は、標高8～12mの東向き緩やかな斜面上に立地し、縄文時代前期（約6,000年前）と奈良・平安時代（約1,300～1,100年前）の大集落が見つかっている。両時期合わせて竪穴建物は100棟以上も確認されている。古代の竪穴建物からは土師器が多数出土し、なかでも長方形の透かしを脚部にもつ8世紀初頭の高坏は、市内初の出土であり、当時蝦夷と呼ばれていた人々と律令政府とのつながりが示唆される。さらに、平安時代の廂をもつ掘立柱建物跡の周辺からは青銅製の分銅が市内で初めて出土している。

弘川館跡は、平成16年度に瑞雲寺裏庭整備に伴い発掘調査され、平安時代の竪穴建物や中近世の墓壙が多数検出されている。館跡に伴う遺構は検出されなかったが、遺構外で16世紀代の白磁片・染付片が出土している。ちなみに弘川館跡は天正11年（1583年）に落城したとされている。

津軽石川を挟んで東の対岸に位置する藤畑遺跡は、平成9年度に発掘調査が行われ、奈良時代後半の竪穴建物や鍛冶炉が検出されている。鍛冶炉周辺からは鉄滓やふいごの羽口が出土し、宮古市内の古代鉄生産を物語る貴重な資料となっている。

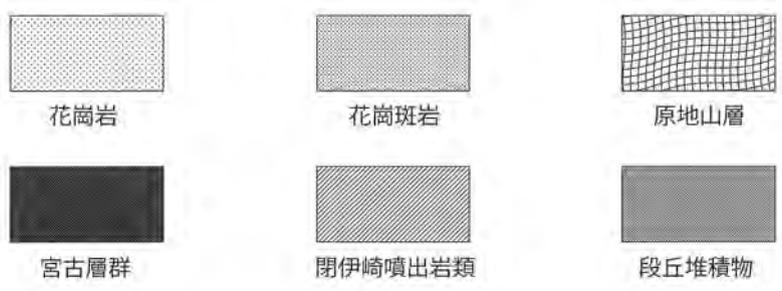
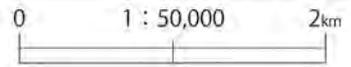
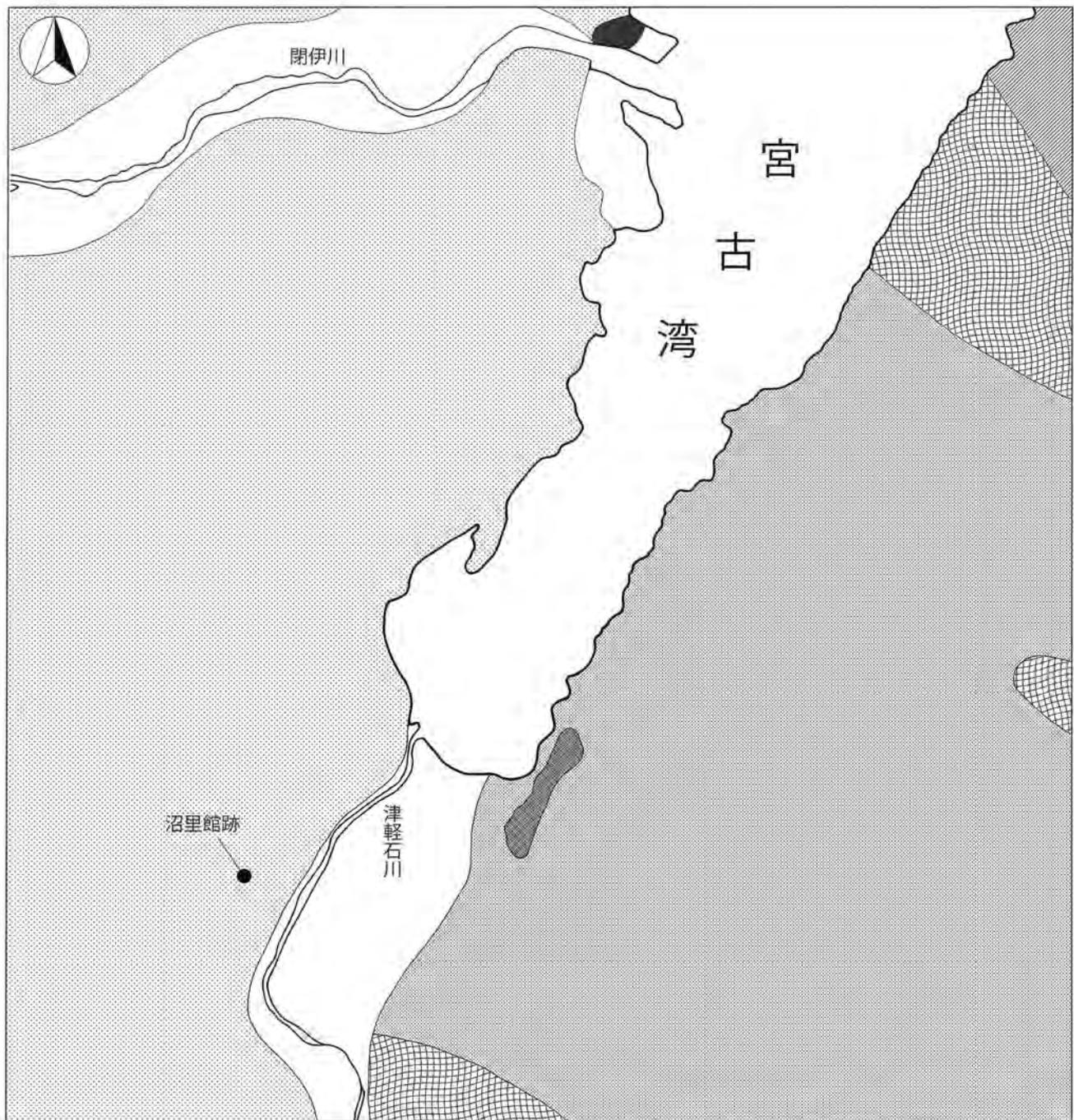
この他、津軽石地区は、三陸沿岸道路に伴い（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターで多くの地点において発掘調査を行っている。今後、発掘調査報告書が刊行されることにより、さらに宮古の歴史が明らかになると思われる。



0 1 : 50,000 2km



第2図 地形分類図



第3図 地質図



番号	遺跡名	主な時代	番号	遺跡名	主な時代
1	沼里館	中世	17	払川Ⅱ遺跡	縄文・古代
2	沼里遺跡	縄文・奈良	18	払川Ⅲ遺跡	縄文・古代
3	津軽石大森遺跡	縄文	19	荷竹日向Ⅰ遺跡	縄文・古代
4	馬越Ⅰ遺跡	縄文・古代	20	金浜Ⅳ遺跡	縄文
5	馬越Ⅱ遺跡	古代	21	金浜Ⅴ遺跡	縄文
6	山崎館	中世	22	小堀内Ⅰ遺跡	縄文・弥生・奈良
7	根井沢穴田Ⅰ遺跡	縄文・古代	23	小堀内Ⅱ遺跡	縄文
8	根井沢穴田Ⅱ遺跡	縄文	24	小堀内Ⅲ遺跡	縄文・奈良
9	根井沢穴田Ⅲ遺跡	縄文	25	赤前Ⅵ釜屋ヶ沢遺跡	縄文・古代
10	根井沢穴田Ⅳ遺跡	縄文	26	赤前Ⅴ柳沢遺跡	縄文・古代
11	根井沢穴田Ⅴ遺跡	縄文	27	赤前Ⅳ八枚田遺跡	縄文・平安
12	根井沢日影Ⅰ遺跡	縄文	28	赤前Ⅲ遺跡	縄文・平安
13	根井沢日影Ⅱ遺跡	縄文	29	赤前館	中世
14	高平館	中世	30	赤前Ⅰ牛子沢遺跡	縄文
15	払川館	中世	31	久保田遺跡	縄文・古代
16	払川Ⅰ遺跡	縄文・奈良	32	藤畑遺跡	縄文・古代

第4図 周辺の遺跡分布図

第3章 調査の方法

第1節 調査方法

実測・写真撮影・土層注記

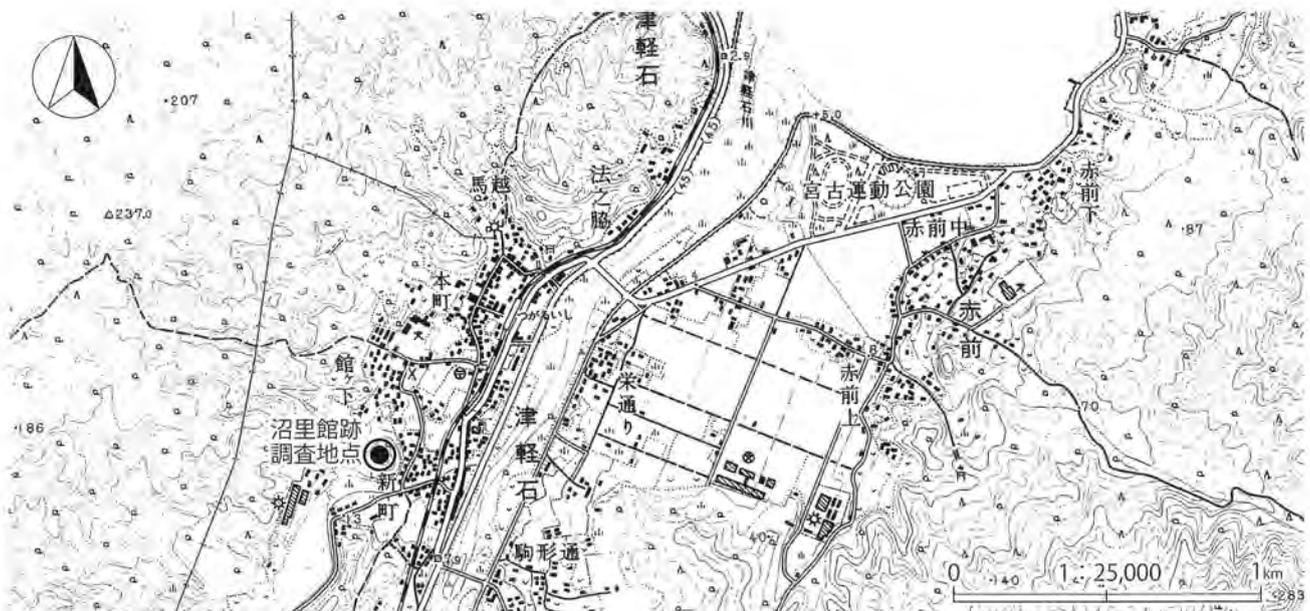
遺構平面図及び遺構断面図の縮尺は1/20を基本とし、座標及び標高は事業工事用の基準杭をもとに調査区内に設定した。写真撮影は35mmの一眼レフカメラを使用し、フィルムはモノクロ、カラーリバーサル、カラーフィルムの3種類を用いた。さらに参考としてデジタルカメラも併用した。土層注記は「新版標準土色帖」を用いて肉眼による観察を行った。観察項目は色調・土性・しまり・粘性・混入物などである。

資料整理の方法

調査終了後、遺構実測図及び全体図は、平面図と断面図相互の整合性についてチェックし、第二原図の作成を行い、さらにトレースを行った。撮影した写真は、現場で記録した写真台帳を基に白黒フィルムはネガアルバムに、カラーリバーサルはスライドファイルに収納し、それぞれ写真1枚ごとに番号を付した。

出土した遺物は現場での取上げ後、埋蔵文化財調査室で水洗いを行い、袋ごとに番号を付した。それを基に遺物台帳を作成し、資料整理作業の基本台帳とした。

本報告書に掲載されている遺物は、縄文土器破片1点、土師器坏破片2点、石器1点のみである。その他、小破片のため図示できなかったが、土師器甕破片が試掘調査Bトレンチから1点出土している。さらに、表土中及び試掘トレンチからは陶磁器・おはじき・硬貨（1銭・5円・10円）・ガラス片・鉄釘・鉄銭・不明鉄製品などが出土している。硬貨の年代から明治・大正から昭和にかけての遺物と考えられる。



第5図 沼里館跡 位置図(2)

ちなみに、主屋と庭園が国登録有形文化財になっている津軽石地区の有力者であった盛合家に残されたフィルムには昭和15年頃の様子が映っており、その中で今回調査した館の主郭部分で宴会を催している部分も含まれている。そのため、前述の陶磁器やおはじきなどは、そのような宴会や地区のお祭りの際の遺物と推測され、本報告書では割愛した。

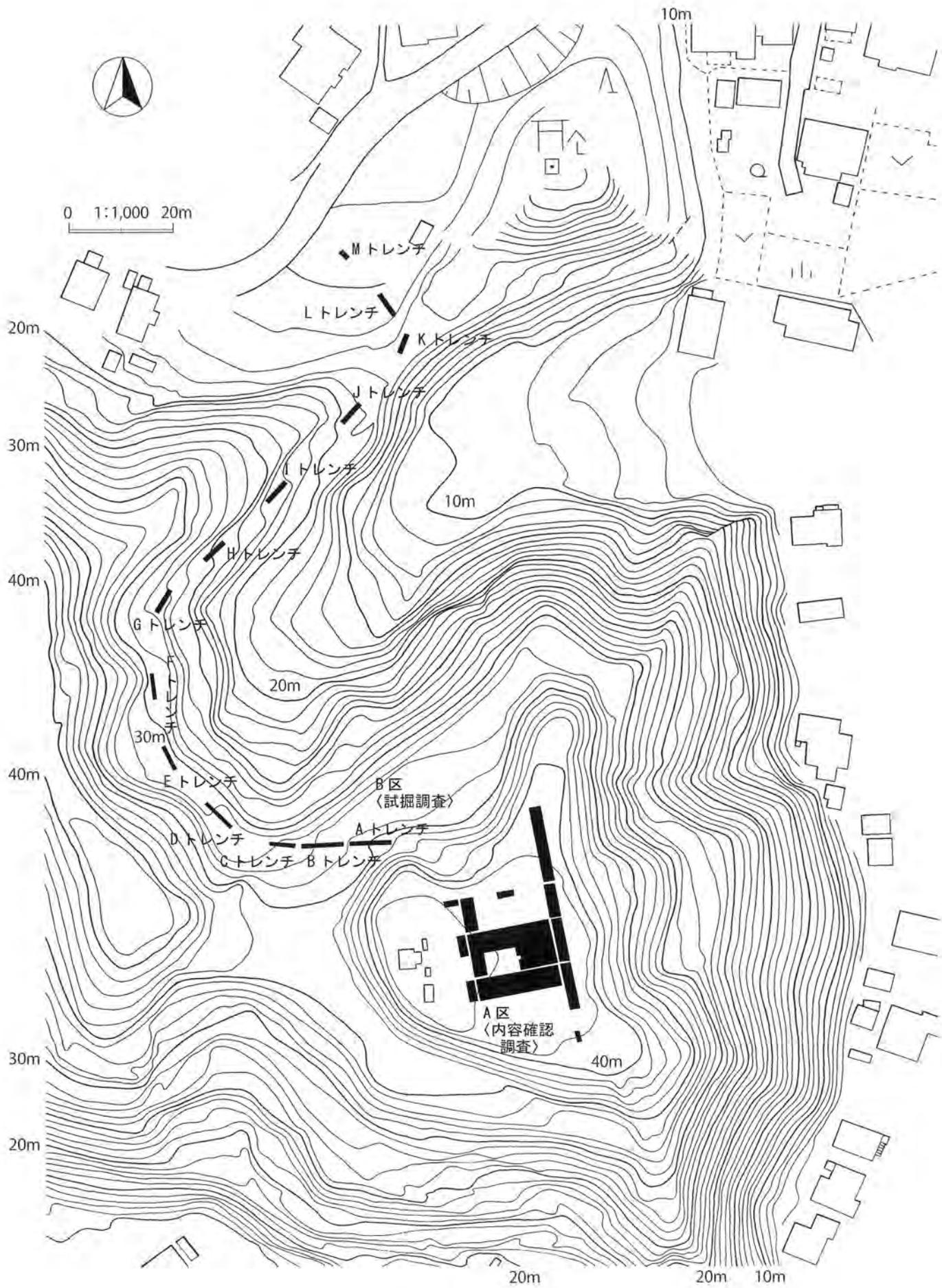
試掘・内容確認調査区の略号

第1章第1節のとおり、今回の都市防災総合推進事業（公園整備）に伴う調査は、「試掘調査」と「内容確認調査」の大きく2つの調査に分けられる。調査現場では、便宜的に内容確認調査を実施した館の主郭部分をA区、主郭へつながる道路部分をB区と略称した。さらに、それぞれA区ではA～Fトレンチ（6箇所）を設定し、B区ではA～Mトレンチ（13箇所）を設定した。本報告書でもその略号を使用している（第6・15図参照）。

第2節 調査経過

<平成25年度>

- 10月21日 調査前現況の写真撮影を行い、B区の試掘トレンチを設定した。雨のため午前のみ。
- 10月22日 B区の試掘トレンチの掘り下げを開始した。A区の草刈りなど環境整備を行った。
- 10月23日 A区のトレンチを設定した。
- 10月28日 A区トレンチの掘り下げを開始した。A区の基本層序を確認した。
- 10月29日 A区全体図を平板で作成した。
- 10月31日 A区で掘立柱建物跡の柱穴を検出した。
- 11月6日 A区のトレンチ断面図を作成した。平成25年度佐藤教育部長が発掘調査参加。
- 11月7日 A区の座標を設定し、遺構平面図作成の準備を行った。
- 11月14日 A区の掘立柱建物跡の平面図を作成した。調査員2人体制になり、B区の試掘トレンチの掘り下げを再開。
- 11月15日 B区のD～Fトレンチの掘り下げを行った。
- 11月18日 A区掘立柱建物跡の柱穴の掘り下げを行った。
- 11月19日 B区のAトレンチの断面図を作成した。
- 11月21日 調査現場で都市計画課と協議。試掘・内容確認調査の進捗状況説明を行った。B区のA～Cトレンチにおいて、館跡に伴う空堀跡を検出したため、本調査が必要になる旨伝えしたが、空堀跡を検出した地点はアスファルト敷きにしないとの回答があったため、本調査を行わないことで互いに了承した。
- 11月22日 B区の試掘トレンチの断面図を作成した。A区のトレンチの写真撮影を行った。
- 11月26日 B区のL・Mトレンチの掘り下げを行った。A区のトレンチ埋め戻しを開始した。
- 11月28日 B区の試掘トレンチの平面図を作成した。
- 12月3日 B区の試掘トレンチの埋め戻しを行った。一部の機材を撤収した。
- 12月4日 A区の地形図を光波測距儀で作成した。機材を撤収し、全ての調査を終了した。



第6図 調査区周辺地形図

第4章 内容確認調査

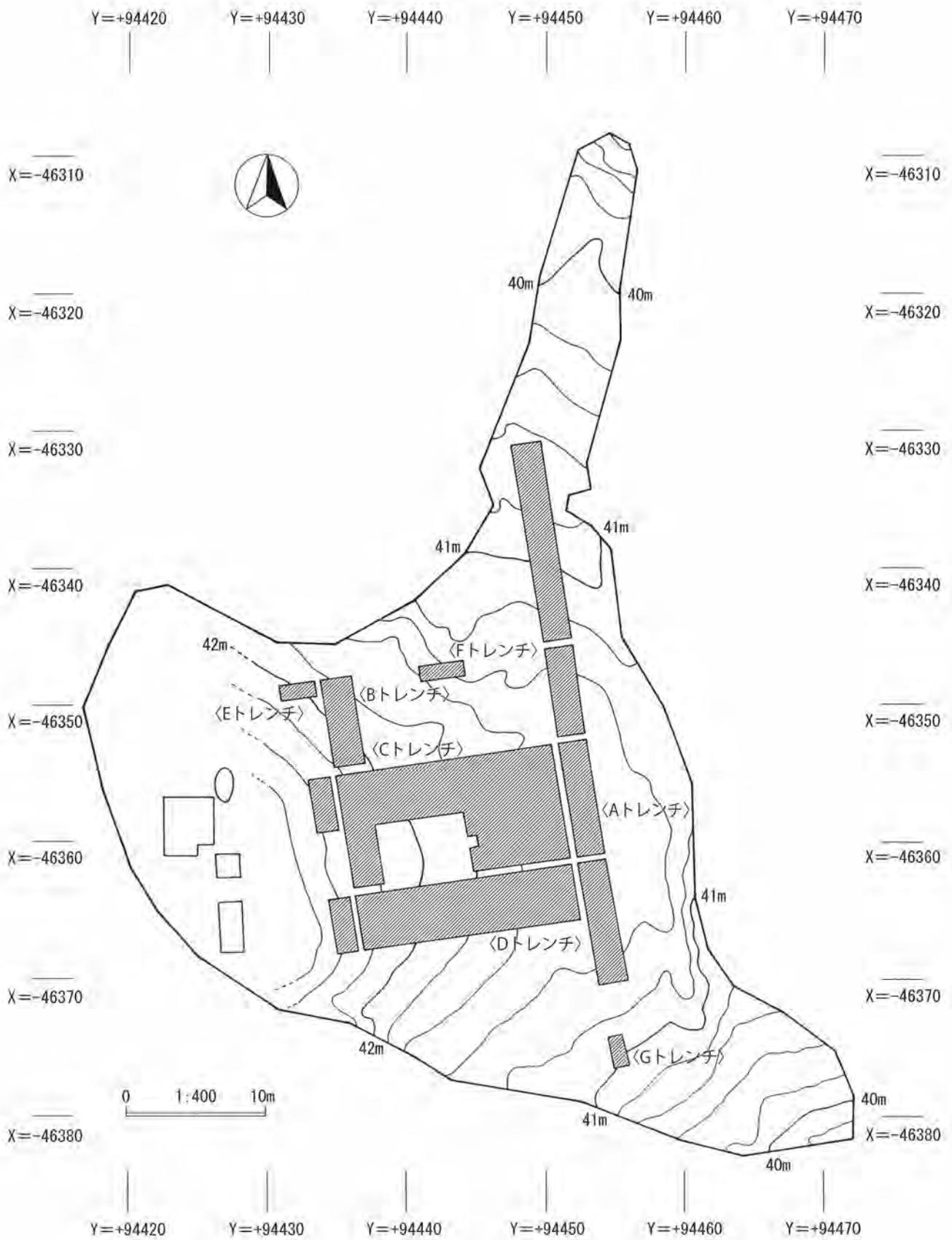
内容確認調査は、都市防災総合推進事業の中でも、避難公園部分の整備に伴い盛土工事を行うことを受けて実施した。前述のとおり、調査地点を便宜的にA区と略称する。対象面積は約900㎡で、調査面積は約285㎡である。A区は、標高約40mの平坦な地形を有し、周囲を急峻な崖に囲まれている。田村忠博氏『古城物語』では沼里館跡の「主郭」と位置付けられている地点にあたる。

調査の結果、掘立柱建物跡、切土・盛土造成、焼土遺構1基、柱穴が検出された。検出された遺構・遺物については、第2節以降で詳述する。

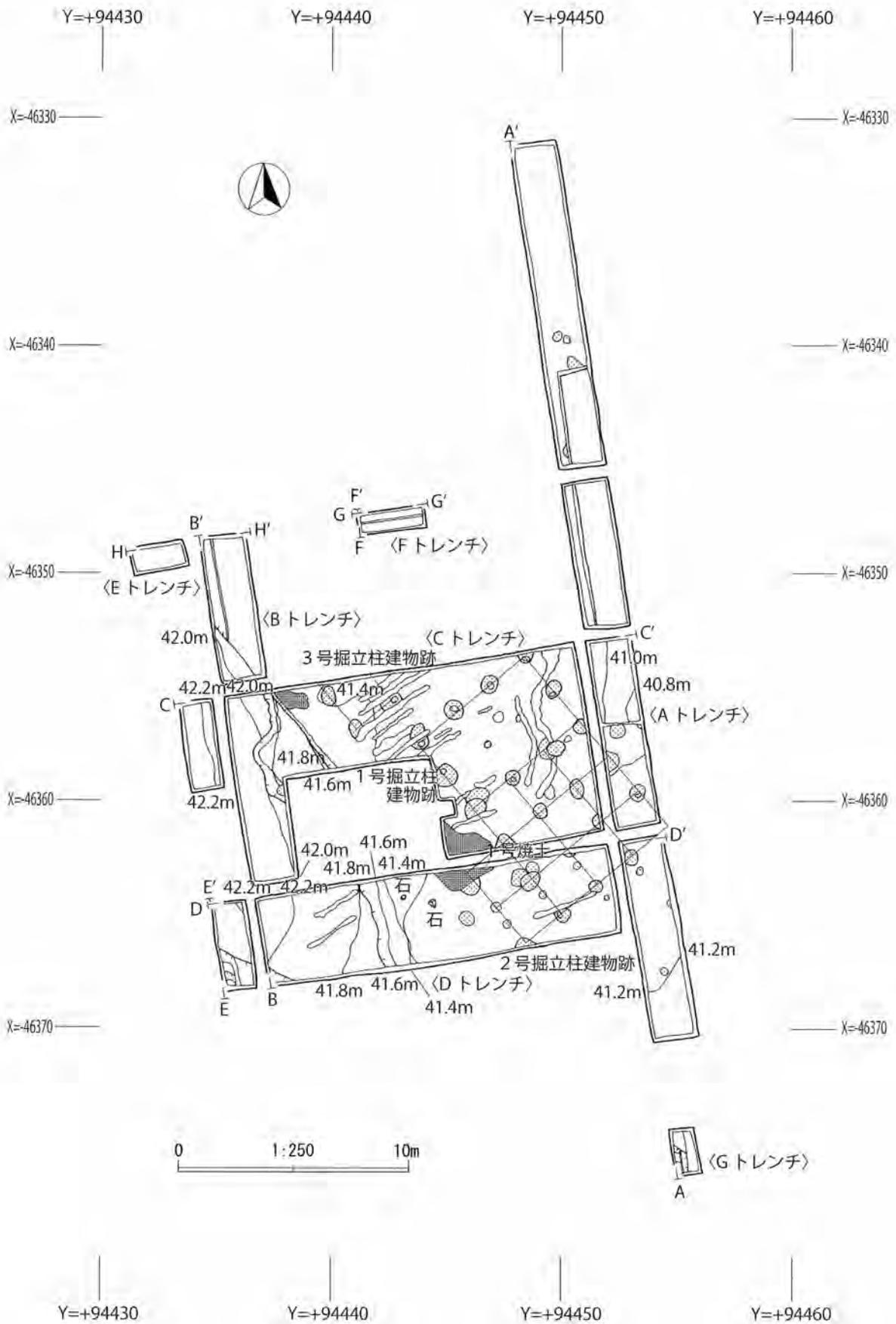
第1節 基本土層

A区内の堆積土の土層観察は、A～Fトレンチの北壁面及び西壁面において実施した。A区の全域に堆積している基本土層についてはローマ数字で表記し、切土・盛土造成などの調査区の一部にのみ堆積している土層については、アラビア数字で表記している（第9・10図 参照）。ともに土層の細別については、英小文字（a・b・c…）を付して表示している。

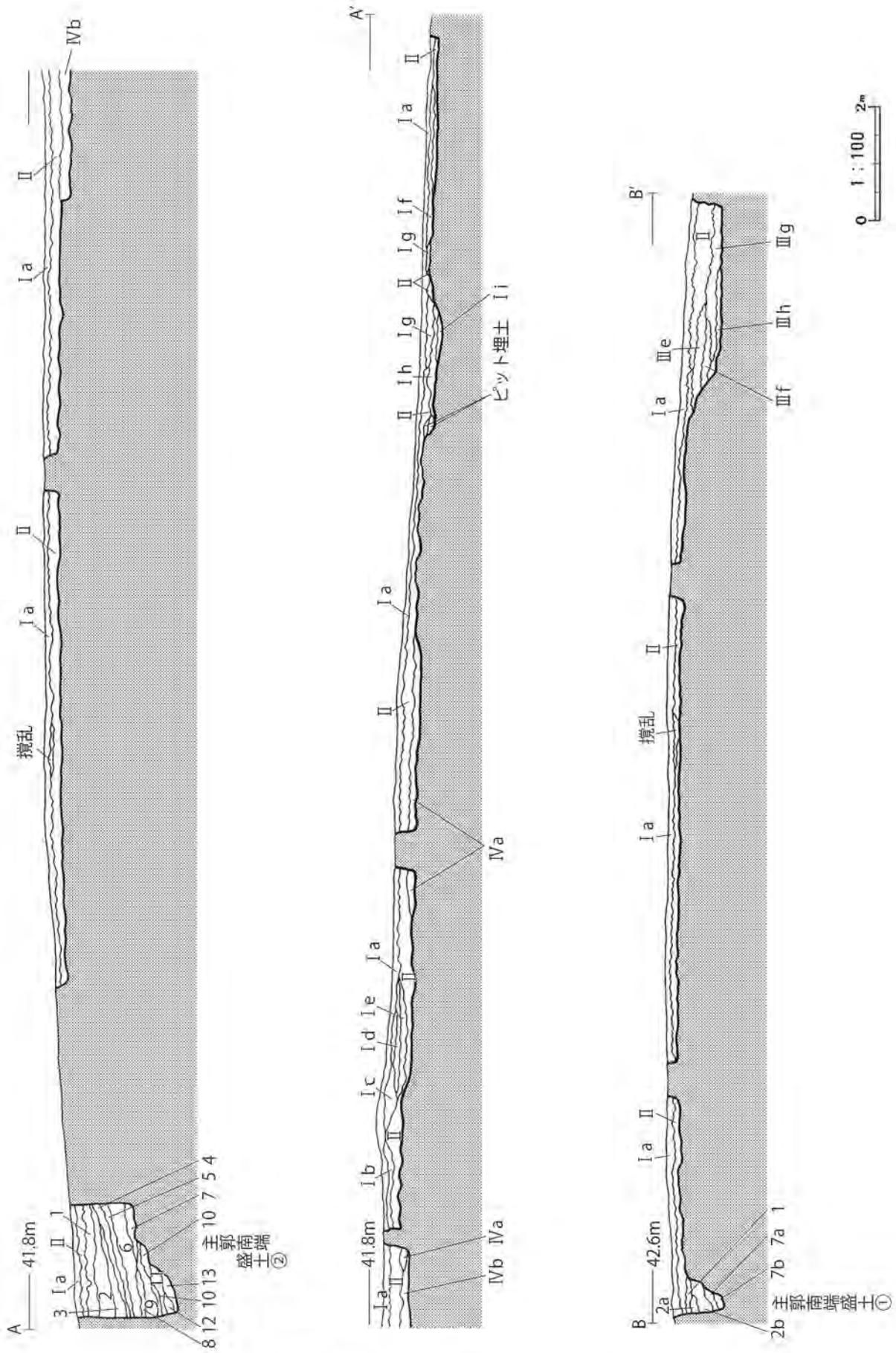
- I a層～I i層 : 表土層で、I a層は調査区全域に堆積している。I b層～I i層は主にAトレンチ北部で確認された砂質を呈する土層であるが、地山である風化花崗岩（真砂土）の二次堆積と考えられる。
- II層 : 調査区全域に堆積している。3mm大の炭化物が少量含まれ、やや砂質を呈している。II層の直下は地山面となる地点が多い。掘立柱建物跡はこのII層を掘り下げた地山面で検出しており、人為的な堆積が考えられる。盛土の時期は不明であるが、層中からはおはじき・硬貨などの近代の遺物が多く出土している。
- III a層～III h層 : 主に調査区西側に堆積し、II層と同様、人為的な盛土層と考えられる。内容確認調査区（A区）では盛土・切土造成の痕跡がみられたが、それらを埋めるように堆積している。にぶい黄褐色を呈する砂壤土で、砂の粒子が細かい。
- IV a層・IV b層 : 内容確認調査区（A区）の東端にのみ堆積し、Aトレンチで確認している。IV a層はにぶい黄橙色の砂壤土で、砂の粒子は細かい。IV b層は明黄褐色の砂壤土で、砂の粒子は粗い。地山土の二次堆積がみられ、人為的な堆積と考えられる。
- V a層・V b層 : 内容確認調査区（A区）のDトレンチの中央部にのみ堆積している。ともににぶい黄褐色を呈する砂壤土で、2mm～5mm大の炭化物が混入している。
- 主郭南端盛土① : 1層～8層に大別され、さらに2a層・2b層、3a層・3b層、7a層・7b層に細別される。内容確認調査区（A区）の南西部の地山面が落ち込む箇所を埋めるように堆積し、人為的な堆積が考えられる。
- 主郭南端盛土② : 1層～13層に分けられる。内容確認調査区（A区）の南端のGトレンチでのみ確認している。主郭南端盛土①と同様、地山面の落ち込みを埋める人為的な堆積と考えられる。



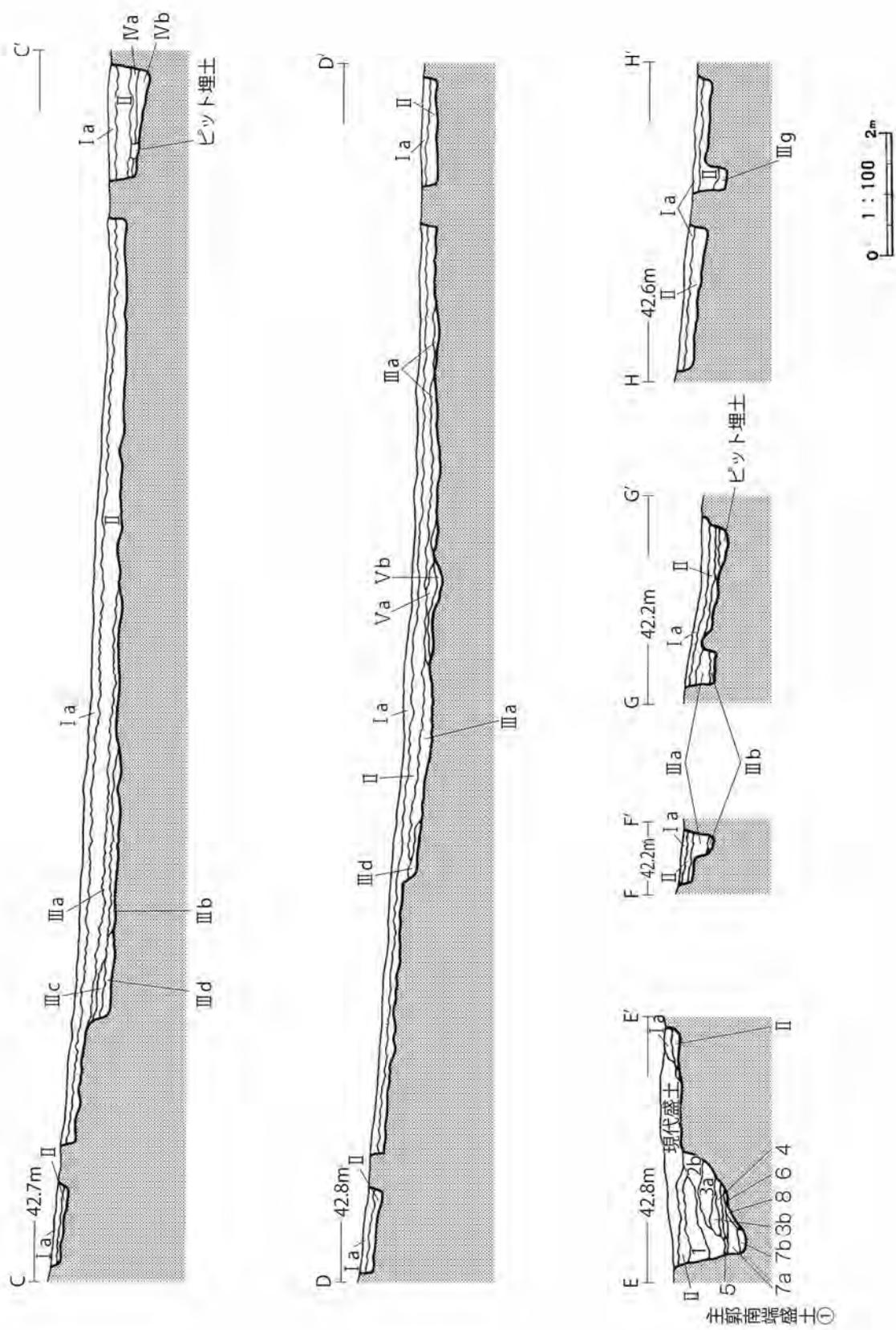
第7図 調査区全体図



第8図 調査区遺構配置図



第9図 調査区壁面 断面図(1)



第10図 調査区壁面 断面図(2)

内容確認調査区 (A区) 基本土層 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
I a	10 Y R 5/3 にぶい黄褐色埴壤土	10 Y R 4/2 灰黄褐色砂質埴土 20%塊状	やや硬質、粘性ややあり 表土層
I b	10 Y R 4/4 褐色埴壤土	10 Y R 6/4 にぶい黄褐色砂壤土 20%塊状	硬質、粘性あり 1cm大の炭化物少量、地山ブロック少量
I c	10 Y R 5/4 にぶい黄褐色砂壤土	10 Y R 5/3 にぶい黄褐色砂壤土 20%塊状	硬質、粘性あり 地山ブロック少量
I d	10 Y R 7/6 明黄褐色砂壤土	10 Y R 6/4 にぶい黄褐色砂壤土 10%塊状	やや硬質、粘性ややあり 地山二次堆積
I e	10 Y R 4/3 にぶい黄褐色砂壤土	10 Y R 5/3 にぶい黄褐色砂壤土 20%塊状	やや硬質、粘性ややあり 5mm大の炭化物少量
I f	10 Y R 2/3 黒褐色砂壤土	10 Y R 3/3 暗褐色砂壤土 10%塊状	硬質、粘性あり 2~3mm大の白色粒多量
I g	10 Y R 5/4 にぶい黄褐色砂壤土	10 Y R 7/3 にぶい黄褐色砂壤土 20%塊状	硬質、粘性あり 5mm大の炭
I h	10 Y R 7/3 にぶい黄褐色砂土	10 Y R 7/4 にぶい黄褐色砂土 10%塊状	軟質、粘性なし 地山土に近い
I i	10 Y R 4/3 にぶい黄褐色砂土	10 Y R 6/3 にぶい黄褐色 20%塊状	軟質、粘性なし 地山土に近い、II層よりもやや暗い土色
II	10 Y R 5/4 にぶい黄褐色埴壤土	10 Y R 6/4 にぶい黄褐色砂質埴土 10%塊状	硬質、粘性あり 3mm大の炭化物少量、調査区全域に堆積
III a	10 Y R 6/4 にぶい黄褐色砂質埴土	10 Y R 5/4 にぶい黄褐色砂質埴土 20%塊状	硬質、粘性あり 地山ブロックも混入 10%
III b	10 Y R 5/4 にぶい黄褐色砂壤土	10 Y R 7/6 明黄褐色砂壤土 20%塊状	やや硬質、粘性ややあり 3~5mm大の炭化物少量
III c	10 Y R 7/3 にぶい黄褐色砂壤土	10 Y R 7/4 にぶい黄褐色砂壤土 30%塊状	軟質、粘性なし
III d	10 Y R 7/6 明黄褐色砂壤土	10 Y R 6/4 にぶい黄褐色砂壤土 30%塊状	軟質、粘性ややあり 地山土の二次堆積
III e	10 Y R 5/4 にぶい黄褐色砂壤土	10 Y R 7/4 にぶい黄褐色砂壤土 30%塊状	やや硬質、粘性ややあり 粒子細かい、5mm大の炭化物
III f	10 Y R 7/4 にぶい黄褐色砂壤土	10 Y R 7/6 明黄褐色砂壤土 10%塊状	やや硬質、粘性ややあり 地山土堆積、粒子粗い
III g	10 Y R 7/3 にぶい黄褐色砂壤土	10 Y R 7/4 にぶい黄褐色砂壤土 5%塊状	やや硬質、粘性ややあり 地山土堆積、粒子細かい
III h	10 Y R 6/3 にぶい黄褐色砂壤土	10 Y R 6/4 にぶい黄褐色砂壤土 10%塊状	やや硬質、粘性ややあり 粒子細かい
IV a	10 Y R 6/4 にぶい黄褐色砂壤土	10 Y R 7/3 にぶい黄褐色砂壤土 5%塊状	やや硬質、粘性ややあり 地山土堆積、粒子細かい
IV b	10 Y R 7/6 明黄褐色砂壤土	10 Y R 6/4 にぶい黄褐色砂壤土 10%塊状	やや硬質、粘性あり 粒子粗い、地山土堆積
V a	10 Y R 4/3 にぶい黄褐色砂壤土	10 Y R 4/2 灰黄褐色砂壤土 5%塊状	やや硬質、粘性ややあり 2~3mm大の炭化物少量
V b	10 Y R 5/3 にぶい黄褐色砂壤土	10 Y R 6/3 にぶい黄褐色砂壤土 30%塊状	やや硬質、粘性ややあり 地山土混入、5mm大の炭化物

主郭南端盛土① 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
I	10 Y R 4/4 褐色埴壤土	10 Y R 6/6 明黄褐色砂壤土 10%斑状 10 Y R 5/8 黄褐色埴壤土 20%塊状	やや硬質、粘性ややあり 盛土層、5mm大の炭化物少量
2 a	10 Y R 5/6 黄褐色埴壤土	10 Y R 7/6 明黄褐色埴壤土 20%斑状	硬質、粘性あり 3mm大の炭化物微量
2 b	10 Y R 4/4 褐色埴壤土	10 Y R 4/6 褐色埴壤土 10%塊状	やや硬質、粘性ややあり
3 a	10 Y R 4/6 褐色埴壤土	10 Y R 5/6 黄褐色砂壤土 20%塊状	やや硬質、粘性ややあり 5mm大の炭化物少量
3 b	10 Y R 5/6 黄褐色埴壤土	10 Y R 6/4 にぶい黄褐色埴壤土 10%塊状	やや硬質、粘性ややあり やや灰色を呈する
4	10 Y R 5/6 黄褐色埴壤土	10 Y R 6/6 明黄褐色砂壤土 20%塊状	やや硬質、粘性ややあり 地山土ブロック少量混入、1cm大の炭化物少量
5	10 Y R 4/4 褐色埴壤土	10 Y R 3/4 暗褐色埴壤土 10%塊状	やや硬質、粘性ややあり
6	10 Y R 7/4 にぶい黄褐色砂壤土	10 Y R 5/4 にぶい黄褐色砂壤土 5%塊状	硬質、粘性あり 層厚約 5cm
7 a	10 Y R 4/6 褐色埴壤土	10 Y R 5/6 黄褐色埴壤土 10%塊状	硬質、粘性あり 5mm大の炭化物少量
7 b	10 Y R 5/4 にぶい黄褐色埴壤土	10 Y R 6/6 明黄褐色埴壤土 5%塊状	硬質、粘性あり 7 a層よりもやや暗い土色
8	10 Y R 5/6 黄褐色埴壤土	10 Y R 6/4 にぶい黄褐色砂壤土 20%塊状	硬質、粘性あり やや灰色を呈する、粒子細かい

主郭南端盛土② 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
1	10 Y R 7/4 にぶい黄褐色砂壤土	10 Y R 6/4 にぶい黄褐色砂壤土 10%塊状	やや硬質、粘性ややあり 地山土ブロック少量
2	10 Y R 7/4 にぶい黄褐色砂壤土	10 Y R 7/3 にぶい黄褐色砂壤土 20%塊状	やや硬質、粘性ややあり 地山土ブロック多量、1cm大の炭化物微量
3	10 Y R 8/3 浅黄褐色砂壤土	10 Y R 7/4 にぶい黄褐色砂壤土 10%塊状	やや硬質、粘性ややあり 地山土ブロック多量、やや密
4	10 Y R 6/4 にぶい黄褐色砂壤土	10 Y R 7/4 にぶい黄褐色砂壤土 20%塊状	やや硬質、粘性ややあり 斑状に混入、地山土ブロック、2mm大の炭化物少量
5	10 Y R 6/3 にぶい黄褐色砂壤土	10 Y R 7/3 にぶい黄褐色埴壤土 30%塊状	硬質、粘性あり 地山土ブロック少量
6	10 Y R 7/4 にぶい黄褐色砂壤土	10 Y R 7/3 にぶい黄褐色砂壤土 20%塊状	やや硬質、粘性ややあり 地山土混入、粗い
7	10 Y R 4/3 にぶい黄褐色埴壤土	10 Y R 6/3 にぶい黄褐色砂壤土 20%塊状	やや硬質、粘性ややあり 1cm大の炭化物少量
8	10 Y R 6/4 にぶい黄褐色砂壤土	10 Y R 7/3 にぶい黄褐色砂壤土 20%塊状	やや硬質、粘性ややあり 地山土混入
9	10 Y R 6/3 にぶい黄褐色砂壤土	10 Y R 7/3 にぶい黄褐色砂壤土 20%塊状	やや硬質、粘性ややあり 粗い
10	10 Y R 5/4 にぶい黄褐色砂壤土	10 Y R 5/3 にぶい黄褐色砂壤土 20%塊状	やや硬質、粘性ややあり やや灰色を呈する
11	10 Y R 6/3 にぶい黄褐色砂壤土	10 Y R 7/3 にぶい黄褐色砂壤土 5%塊状	やや硬質、粘性ややあり 粗い
12	10 Y R 5/3 にぶい黄褐色砂壤土	10 Y R 4/3 にぶい黄褐色砂壤土 20%塊状	やや硬質、粘性ややあり 粗い
13	10 Y R 3/4 暗褐色砂壤土	10 Y R 4/3 にぶい黄褐色砂壤土 10%塊状	やや硬質、粘性ややあり 斑状に混入

第2節 掘立柱建物跡

掘立柱建物跡は内容確認調査区（A区）の中央部で検出され、1号掘立柱建物跡とした中で、p11とp12が他の柱穴と比べて小規模なピットであったことから、建物の床束の用途を想定し、その周りで検出された柱穴を結び1棟の掘立柱建物跡と推測した。合わせて1号掘立柱建物跡の南に位置する柱穴群を結び2号掘立柱建物跡、北に位置する柱穴を結び3号掘立柱建物跡とした。これは発掘調査現場での判断であり、今回、資料整理作業を進めるにあたり、あらためて図面を精査すると、1号～3号の柱穴は約2.0mで等間隔で検出されており、柱穴の組み合わせには、他の可能性も考えられることが分かった。

今回の本報告では、発掘調査現場での判断に基づき3棟に分けて記述するが、全てを面的に精査していないため、建物の構造を想定するには難しいと言わざるを得ない。今後の課題としたい。

1号掘立柱建物跡（SB01）（第8・11図、写真図版4・7・12）

1号掘立柱建物跡は調査区中央部、当初Cトレンチとして掘り下げた地点で検出され、遺構検出面は地山面である。重複遺構はなく、木の根による攪乱が部分的にみられた。

南東－北東方向に柱穴が確認され、桁行3間、梁行2間である。規模は桁行6.0m、梁行3.8mで、柱間寸法は、桁方向はp1－（2.0m）－p2－（1.9m）－p3－（2.0m）－p4、p9－（2.0m）－p8－（1.8m）－p7－（2.1m）－p6である。梁方向はp1－（1.9m）－p10－（1.9m）－p9、p4－（1.7m）－p5－（2.0m）－p6である。主軸はN38°Eである。

柱穴の平面形は不整な円形・楕円形で、規則性はみられない。長径70cm～110cm、短径60cm～85cmで、p11とp12のみ径15～25cmと小規模である。そのため、柱穴というよりは床束の機能が考えられる。p1～5、7・9・10で柱の痕跡が確認されている。p4のみ堆積の確認のため掘り下げを行っている。堆積土は17層に分けられ、深さ60cmで底面となった。底面には硬化した箇所がみられ、柱のあたりと考えられる。層中には地山土の二次堆積や自然礫の混入が確認された。人為的に埋め戻された可能性が考えられる。

この他、p6の西側には炭化物の分布がみられたが、明瞭なものではなく、二次堆積の可能性もある。遺物は出土していないため、所属時期は不明である。

2号掘立柱建物跡（SB02）（第8・12図、写真図版5・8・11・13）

2号掘立柱建物跡は調査区中央部、当初Dトレンチとして掘り下げた地点で検出され、遺構検出面は地山面である。重複遺構はなく、木の根による攪乱が部分的にみられた。

南東－北東方向に柱穴が確認され、桁行4間、梁行2間である。規模は桁行8.0m、梁行3.9mで、柱間寸法は、桁方向はp19－（2.0m）－p1－（2.0m）－p2－（2.0m）－p3－（2.2m）－p4、p7－（2.0m）－p8－（2.0m）－p11－（1.9m）－p16である。梁方向はp4－（1.8m）－p5－（2.0m）－p7、p19－（2.0m）－p18である。主軸はN41°Eである。

柱穴の平面形は不整な円形・楕円形で、規則性はみられない。長径50cm～90cm、短径45cm～75cmで、p8・11・16・18で柱の痕跡が確認されている。p16のみ堆積の確認のため掘り下げを行っている。堆積土は5層に分けられ、深さ60cmで底面となった。底面には硬化した箇所がみられなかった。層中には自然礫の混入が確認され、1号掘立柱建物跡と同様、人為的に埋め戻された可能性が考えられる。この他、p3・4の北西側には炭化物の分布がみられたが、明瞭なものではなく、二次堆積の可能性もある。また、p3とp4の間には1号焼土遺構が検出されている。遺物は出土していないため、所属

時期は不明である。

3号掘立柱建物跡（SB03）（第8・13図、写真図版6・9）

3号掘立柱建物跡は調査区中央部、当初Cトレンチとして掘り下げた地点で検出され、遺構検出面は地山面である。人為的な溝状のプランが建物の主軸に沿うように検出され、本遺構はそれらよりも古い。

1号・2号掘立柱建物跡と同様、南東－北東方向に柱穴が確認され、桁行2間以上、梁行1間以上である。他は調査区外のため、確認していない。規模は桁行（4.5）m、梁行（2.3）mで、柱間寸法は、桁方向はp1－（2.1m）－p2、梁方向はp2－（2.0m）－p3である。主軸はN37°Eである。

柱穴の平面形はやや楕円形を呈し、長径80cm～90cm、短径55cmで、p1のみ柱の痕跡が確認されている。p3のみ堆積の確認のため掘り下げを行っている。堆積土は7層に分けられ、深さ60cmで底面となった。層中には地山土の二次堆積が確認され、人為的に埋め戻された可能性が考えられる。さらに、p3の西側には炭化物の分布が確認されている。

遺物は出土していないため、所属時期は不明である。

遺物は第14図1の石器のみ図示している。Dトレンチの基本土層Ⅱ層から出土し、遺構に伴うものではない。縁辺部に加工痕が観察される。

この他、内容確認調査区（A区）からは、おはじき・陶磁器・ガラス片・十円硬貨（昭和28・29・35・37・48・52年）・五円硬貨（昭和25・32・33・38年）・一銭硬貨（大正8年）・判読不明銭（明治16年）・ビール瓶・土製品（魚を象ったもの）・釘・不明鉄製品・鉄滓が出土している。硬貨の年代から明治・大正から昭和にかけての遺物と考えられる。

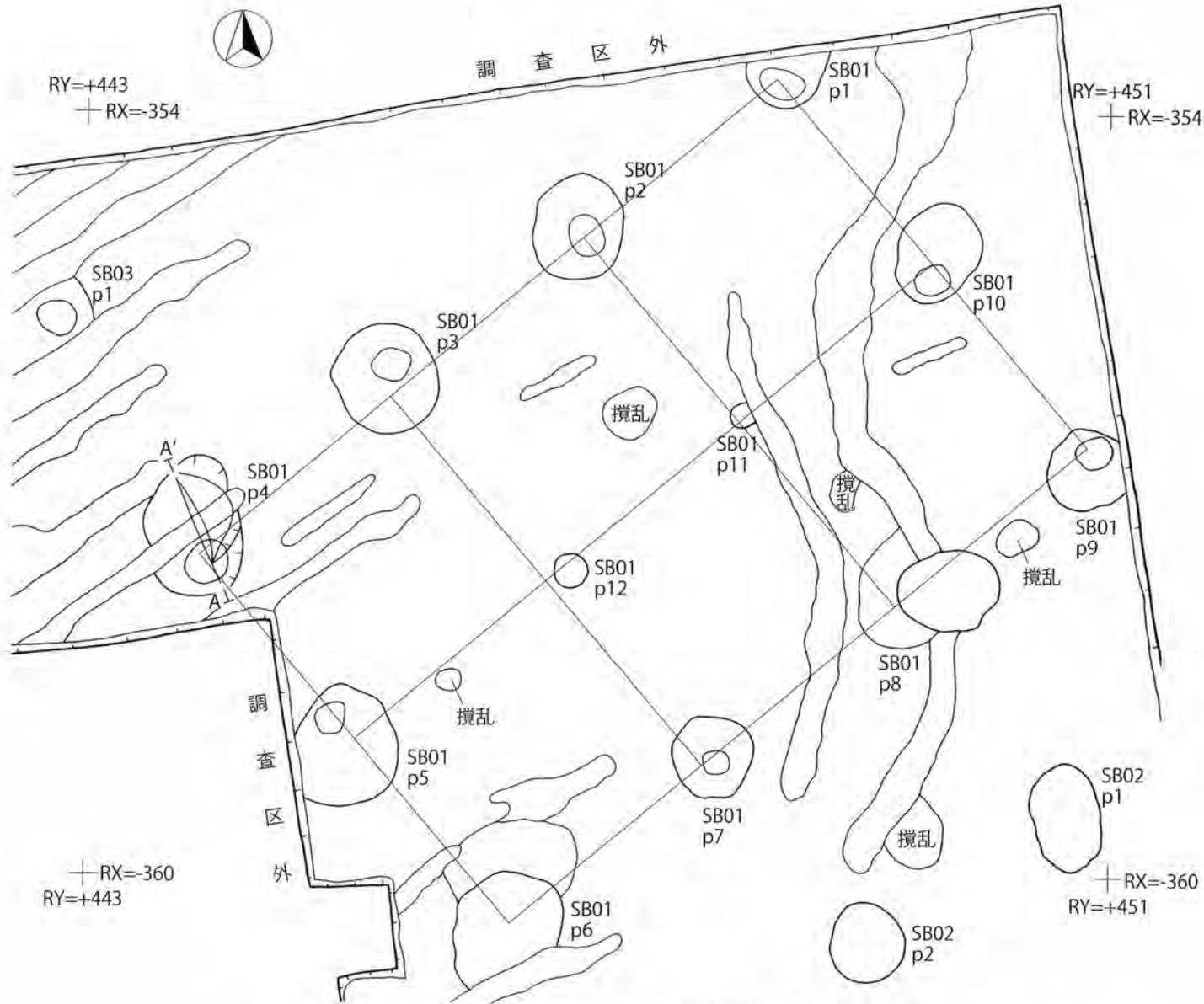
第3節 焼土遺構

焼土遺構は内容確認調査区（A区）の中央部で検出されている。2号掘立柱建物跡のp3とp4の間で確認され、今回の調査では1基のみである。

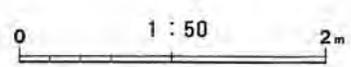
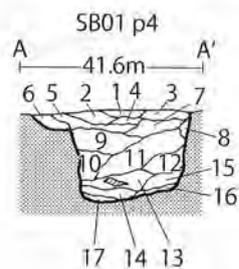
1号焼土遺構（第8・12図、写真図版10）

1号焼土遺構は調査区中央部で検出され、遺構検出面は地山面である。炭化物の分布範囲よりも上部で確認され、炭化物分布範囲と2号掘立柱建物跡は炭化物分布範囲の方が新しいため、焼土遺構は2号掘立柱建物跡よりも新しい。平面形はトレンチ壁際での検出のため不明であるが、円形を呈すると考えられる。規模は長径50cm、短径10cmである。

今回の調査では検出のみにとどめたため、遺構の構造や性格については不明である。

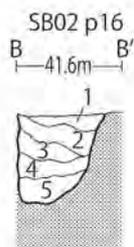
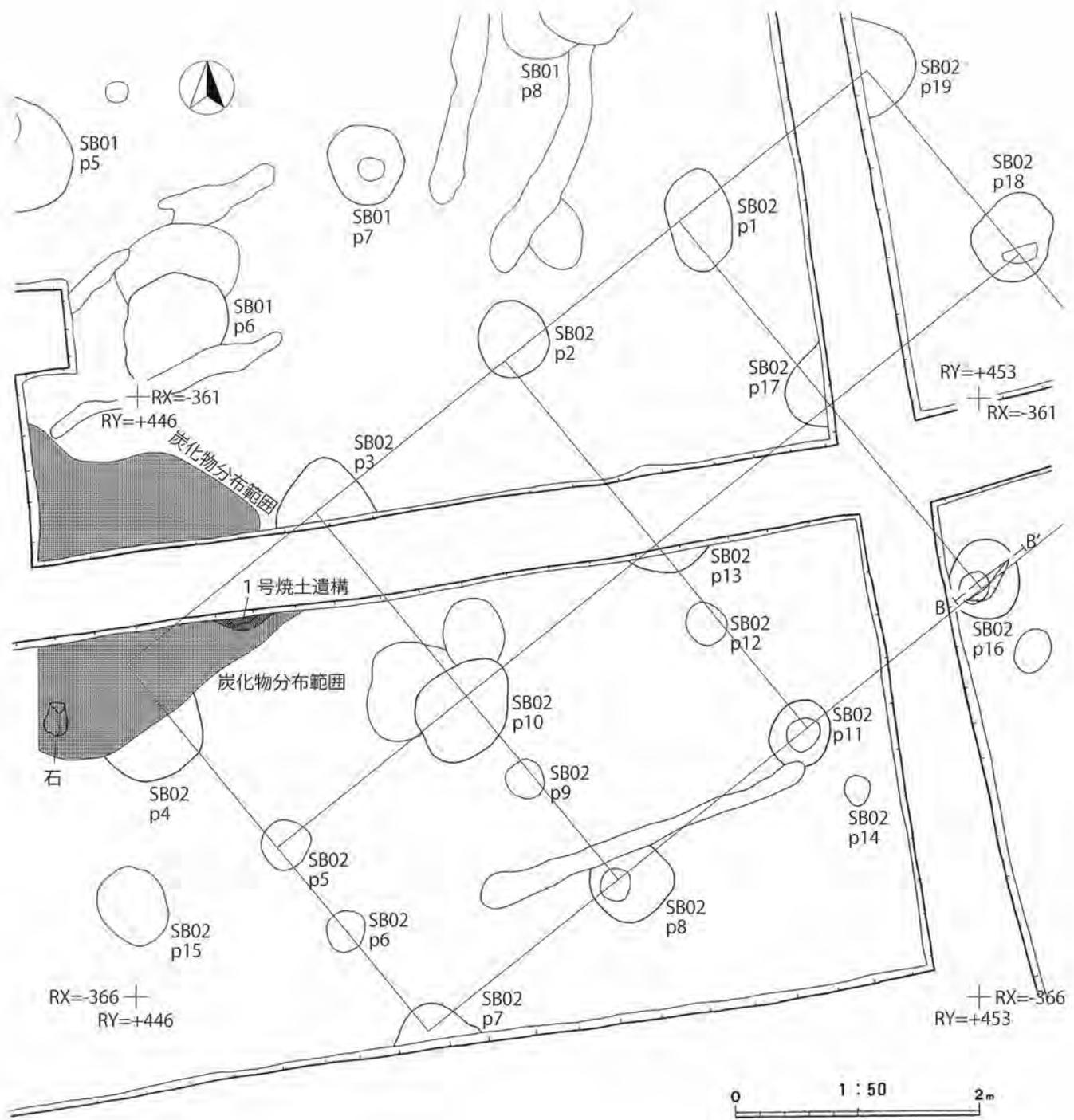


1号掘立柱建物跡 p4 土層観察表



層号	基土	掘入土	土入り・石埋・掘入物
1	10 Y R 5/4 濃い黄褐色砂壤土	10 Y R 3/3 暗褐色砂壤土 10%塊状	中々硬質、粘性中々あり 砂質、1m大の礫化物散在
2	10 Y R 6/4 濃い黄褐色砂壤土	10 Y R 6/3 浅黄褐色砂壤土 20%塊状	中々硬質、粘性中々あり 砂質、1m大の礫化物少量、地山土混入
3	10 Y R 5/4 濃い黄褐色砂壤土	10 Y R 6/4 濃い黄褐色砂壤土 5%塊状	中々硬質、粘性中々あり 中々砂質
4	10 Y R 5/4 濃い黄褐色砂壤土	10 Y R 6/4 濃い黄褐色砂壤土 10%塊状	中々硬質、粘性中々あり 土層よりもやや暗い土色
5	10 Y R 4/4 褐色砂壤土	10 Y R 5/4 濃い黄褐色砂壤土 20%塊状	中々硬質、粘性中々あり 砂質、2m大の礫化物少量
6	10 Y R 5/4 濃い黄褐色砂壤土	10 Y R 7/4 濃い黄褐色砂壤土 30%塊状	中々硬質、粘性なし 砂質
7	10 Y R 6/4 濃い黄褐色砂壤土	10 Y R 7/4 濃い黄褐色砂壤土 10%塊状	中々硬質、粘性中々あり 砂質、中々粗
8	10 Y R 5/4 濃い黄褐色砂壤土	10 Y R 7/6 明黄褐色砂壤土 20%塊状	中々硬質、粘性中々あり 砂質、中々粗
9	10 Y R 5/6 黄褐色砂壤土	10 Y R 4/6 黄褐色砂壤土 10%塊状	中々硬質、粘性中々あり 砂質
10	10 Y R 7/4 濃い黄褐色砂壤土	10 Y R 5/4 濃い黄褐色砂壤土 20%塊状	中々硬質、粘性中々あり 砂質、中々粗
11	10 Y R 7/4 濃い黄褐色砂壤土	10 Y R 7/3 濃い黄褐色砂壤土 10%塊状	中々硬質、粘性中々あり 粗、地山土の二次堆積
12	10 Y R 6/3 浅黄褐色砂壤土	10 Y R 7/3 濃い黄褐色砂壤土 20%塊状	中々硬質、粘性中々あり 粗も粗い、地山土の二次堆積
13	10 Y R 5/4 濃い黄褐色砂壤土	10 Y R 7/3 濃い黄褐色砂壤土 10%塊状	中々硬質、粘性中々あり 粗い、露出土
14	10 Y R 7/2 濃い黄褐色砂壤土	10 Y R 7/3 濃い黄褐色砂壤土 5%塊状	中々硬質、粘性中々あり 粗
15	10 Y R 6/4 濃い黄褐色砂壤土	10 Y R 7/4 濃い黄褐色砂壤土 10%塊状	中々硬質、粘性中々あり 粗
16	10 Y R 7/2 濃い黄褐色砂壤土	10 Y R 7/3 濃い黄褐色砂壤土 5%塊状	硬質、粘性あり 少なくてしりがある、底面に礫化面形成
17	10 Y R 5/4 濃い黄褐色砂壤土	10 Y R 5/3 濃い黄褐色砂壤土 10%塊状	硬質、粘性あり のたてしりがある

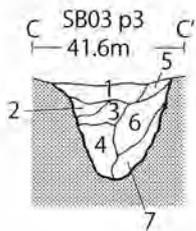
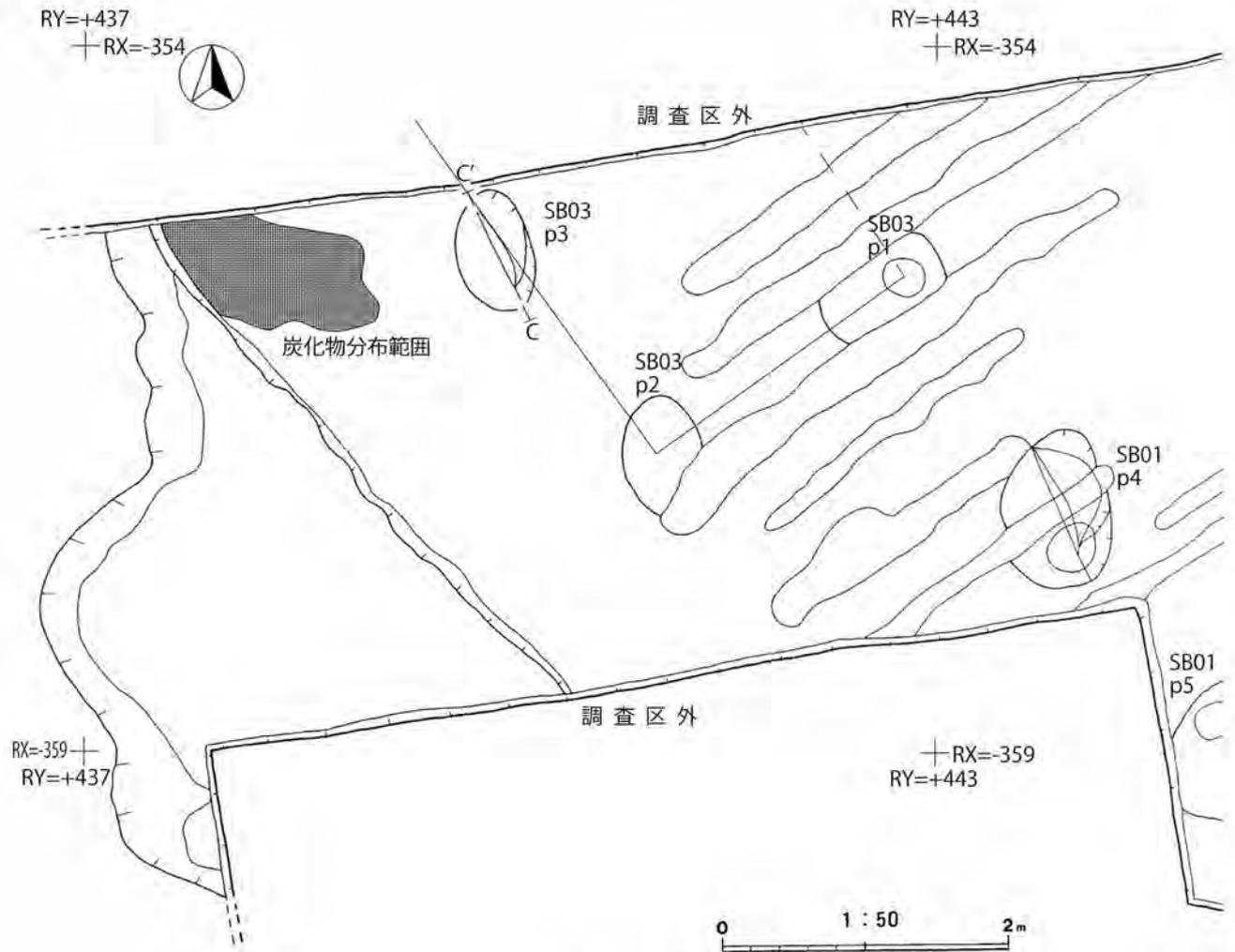
第11図 1号掘立柱建物跡 平面図・断面図



2号掘立柱建物跡 p16 土層観察表

層名	基本土	掘入土	しまり・粘性・混入物	
p16	1	10 Y R 4/3 にふい黄褐色砂壤土	10 Y R 5/4 にふい黄褐色砂壤土 10% 堆積	やや硬質、粘性ややあり
	2	10 Y R 5/4 にふい黄褐色砂壤土	10 Y R 6/4 にふい黄褐色砂壤土 5% 堆積	やや硬質、粘性ややあり 砂質、3cm次の層
	3	10 Y R 6/4 にふい黄褐色砂壤土	10 Y R 5/4 にふい黄褐色砂壤土 10% 堆積	やや硬質、粘性ややあり 砂質
	4	10 Y R 6/4 にふい黄褐色砂壤土	10 Y R 6/3 にふい黄褐色砂壤土 20% 堆積	やや硬質、粘性ややあり 砂質
	5	10 Y R 4/2 黄褐色砂壤土	10 Y R 5/2 黄褐色砂壤土 10% 堆積	やや硬質、粘性ややあり 砂質

第 12 図 2号掘立柱建物跡 平面図・断面図



3号掘立柱建物跡 p3 土層観察表

層名	基本土		混入土		しまり・粘性・混入物
	層番号	土質	層番号	土質	
p3	1	10Y R6/6 明黄色砂壤土	10Y R6/4	にぶい黄褐色粘壤土10%混状	中砂微質、粘性や中あり砂質、2mm大の炭化物少量
	2	10Y R7/4 にぶい黄褐色砂壤土	10Y R6/4	にぶい黄褐色砂壤土20%混状	中砂微質、粘性や中あり砂質、1mm大の炭化物微量
	3	10Y R6/4 にぶい黄褐色砂壤土	10Y R7/3	にぶい黄褐色砂壤土10%混状	中砂微質、粘性や中あり砂質、2mm大の炭化物少量
	4	10Y R6/4 にぶい黄褐色砂壤土	10Y R7/2	にぶい黄褐色砂壤土30%混状	中砂微質、粘性や中あり砂質、中炭化物少量混入
	5	10Y R5/4 にぶい黄褐色砂壤土	10Y R7/2	にぶい黄褐色砂壤土10%混状	中砂微質、粘性や中あり砂質、中炭化物少量混入
	6	10Y R7/2 にぶい黄褐色砂壤土	10Y R6/3	浅黄褐色砂壤土20%混状	中砂微質、粘性や中あり砂質、2mm大の炭化物少量
	7	10Y R6/4 にぶい黄褐色砂壤土	10Y R7/4	にぶい黄褐色砂壤土10%混状	中砂微質、粘性や中あり砂質、2mm大の炭化物少量

第13図 3号掘立柱建物跡 平面図・断面図



第14図 内容確認調査 出土遺物

第1表 石器観察表

挿図番号	番号	出土地点	層位	器種	現存する大きさ				備考
					最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	
14	1	A区 Dトレンチ	II層	不明 (打製石斧?)	4.0	7.5	2.0	6	縁辺部に剥離加工痕

第5章 試掘調査

試掘調査は、都市防災総合推進事業の中でも、避難道路部分の整備に伴いアスファルト舗装工事を行うことを受けて実施した。前述のとおり、調査地点を便宜的にB区と略称する。対象面積は約570㎡で、調査面積は約70㎡である。麓から避難公園（A区）へ向かう現存する山道に沿って、試掘トレンチを13箇所（Aトレンチ～Mトレンチ）設定し、遺構・遺物の確認を行った。田村忠博氏『古城物語』では沼里館跡の「空堀」「大手口」と位置付けられている地点にあたる。

調査の結果、A～Cトレンチにおいて、空堀3条が検出されたが、狭小な試掘トレンチのため検出のみとし、平成25年11月21日の現地協議によりアスファルト舗装を行わない旨の回答があったため、本調査には至っていない。そのため、各試掘トレンチは、試掘調査後には埋め戻しを行った。

Aトレンチ（第15・16図 写真図版 27・28・31・32）

Aトレンチは、試掘調査区（B区）の最も標高の高い地点、内容確認調査区（A区）から約20m下がった山道部分に設定した。長さ8m、幅1mで、深掘りなどで最大1.8mまで掘り下げている。堆積土は、最大厚1.2mある現代の盛土・旧表土の下層において、24層に分層された。

遺構は1号空堀跡がトレンチ東端から西端にかけて検出されている。東端には空堀の立ち上がりの箇所を確認しているため、それ以上は東には延びていかないと考えられる。トレンチ内の西端から3m～3.5mの箇所で1号空堀跡と2号空堀跡の重複関係が確認された。断面観察により1号空堀跡の方が新しいことを確認している。

Bトレンチ（第15・17図 写真図版 27・29・33）

Bトレンチは、試掘調査区（B区）において、Aトレンチの西側に隣接して設定した。長さ8m、幅1mで、深掘りなどで最大0.9mまで掘り下げている。堆積土は、路面整地層・現代の盛土層の下層において、27層に分けられる。

遺構はAトレンチでも検出された2号空堀跡の続きが検出されている。さらに、トレンチ内の東端から3m～4.5mの間で2号空堀跡と3号空堀跡の重複関係が平面的に確認されている。一部掘り込みを行い、2号空堀跡の方が新しいことを確認している。

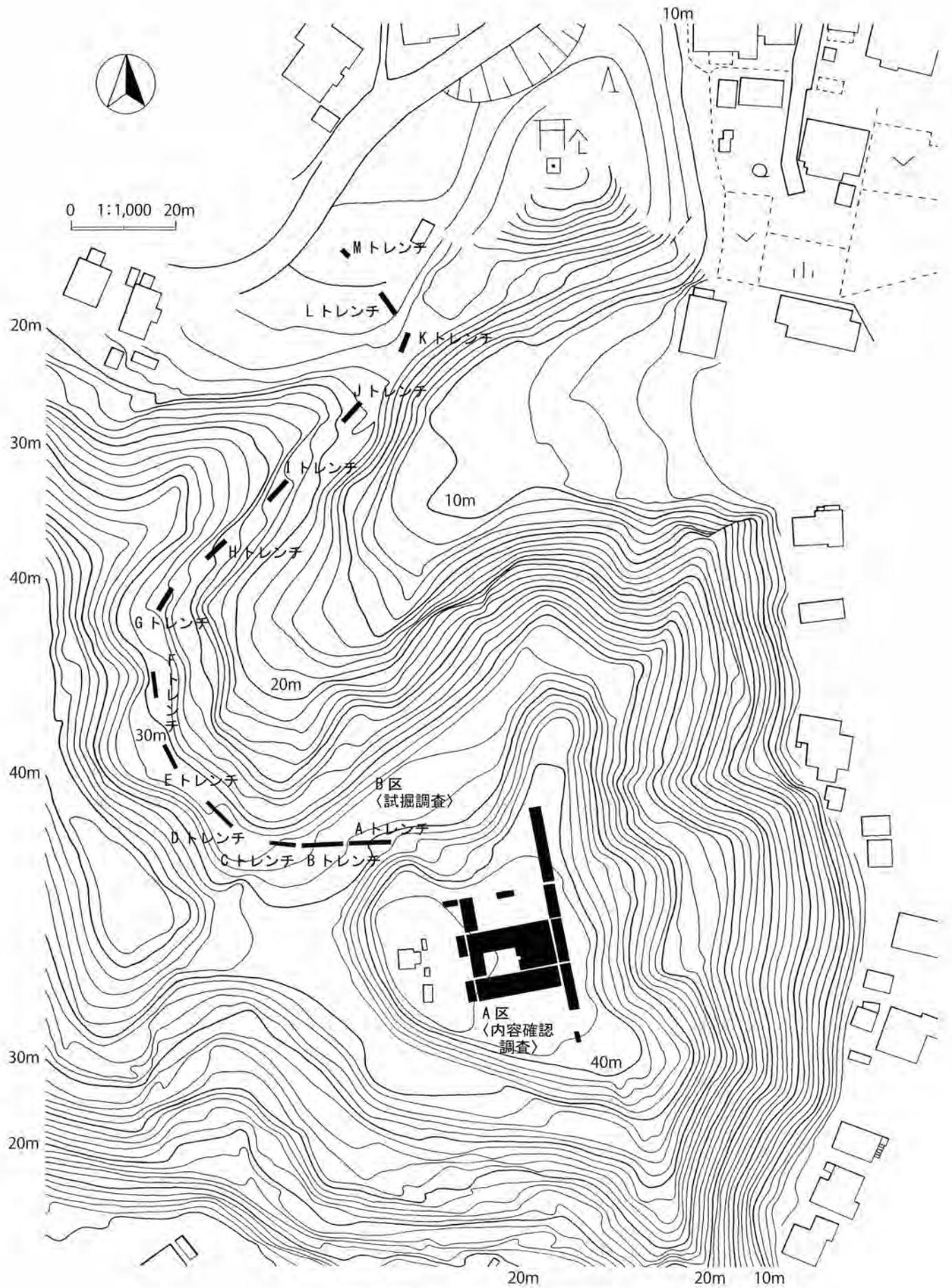
遺物は土師器甕片・ガラスが出土しているが、現代の土層に混入したものと考えられるため、図示していない。

Cトレンチ（第15・17図 写真図版 27・30・34）

Cトレンチは、試掘調査区（B区）において、Bトレンチの西側に隣接して設定した。長さ5m、幅1mで、深掘りなどで最大1.6mまで掘り下げている。堆積土は、表土の下層において、39層に分けられる。

遺構は3号空堀跡が検出され、平面での確認ではあるが、トレンチ東端から約2mの箇所で空堀跡の立ち上がりを検出している。その箇所から西側には空堀の堆積はみられない。

遺物は陶磁器・10円硬貨（昭和28年）・不明鉄製品・釘が出土しているが、全て現代の所産であるため、図示していない。



第 15 図 試掘調査トレンチ位置図

Dトレンチ (第15・18図 写真図版 35)

Dトレンチは、試掘調査区(B区)の標高約30m付近の山道部分に設定した。長さ7m、幅1mで、深掘りなどで最大1.2mまで掘り下げている。堆積土は、表土以下21層に分けられる。全て現代に盛土された土層と考えられる。

遺構は検出されていない。遺物も出土していない。

Eトレンチ (第15・19図 写真図版 36)

Eトレンチは、試掘調査区(B区)の標高約30m付近の山道部分に設定した。長さ5m、幅1mで、深掘りなどで最大1.5mまで掘り下げている。堆積土は10層に分けられたが、全て現代に盛土された土層と考えられる。

遺構は検出されていない。遺物は陶磁器・鉄銭が出土したが、全て現代の所産であるため、図示していない。

Fトレンチ (第15・19図 写真図版 37)

Fトレンチは、試掘調査区(B区)の標高約30m付近の山道部分に設定した。長さ5m、幅1mで、深掘りなどで最大0.8mまで掘り下げている。堆積土は9層に分けられ、トレンチ北端は表土直下に花崗岩の地山となる。

遺構は検出されていない。遺物は鉄銭・不明鉄製品が出土したが、全て現代の所産であるため、図示していない。

Gトレンチ (第15・20図 写真図版 38)

Gトレンチは、試掘調査区(B区)の標高約26m付近の山道部分に設定した。長さ5m、幅1mで、深掘りなどで最大0.5mまで掘り下げている。堆積土は、表土の下層において3層に分けられたが、層厚は薄く、花崗岩の地山面が直下で確認された。

遺構は検出されていない。遺物も出土していない。

Hトレンチ (第15・20図 写真図版 39)

Hトレンチは、試掘調査区(B区)の標高約23m付近の山道部分に設定した。長さ5m、幅1mで、深掘りなどで最大0.5mまで掘り下げている。堆積土は、路面整地層の下層において23層に分けられたが、全て現代に盛土された土層と考えられる。

遺構は検出されていない。遺物も出土していない。

Iトレンチ (第15・21・25図 写真図版 40・43)

Iトレンチは、試掘調査区(B区)の標高約20m付近の山道部分に設定した。長さ5m、幅1mで、深掘りなどで最大1.0mまで掘り下げている。堆積土は、路面整地層の下層において16層に分けられたが、全て現代に盛土された土層と考えられる。

遺構は検出されていない。遺物は土師器坏片が2点出土し、第25図で図示している。第25図2・3ともに口縁部の破片で、内面黒色処理が施されている。原位置を留めている遺物ではなく、現代の土層に混入したものと考えられる。この他、図示していないが不明鉄製品・鉄滓が出土している。

Jトレンチ (第15・22図 写真図版 41)

Jトレンチは、試掘調査区(B区)の標高19m~18m付近の山道部分に設定した。長さ5m、幅1mで、深掘りなどで最大1.0mまで掘り下げている。堆積土は、路面整地層の下層において33層に分けられたが、全て現代に盛土された土層と考えられる。

遺構は検出されていない。遺物は陶磁器・土師器片・炭化物・不明鉄製品・釘・玉が出土したが、小片及び現代の土層に混入したものと考えられるため、図示していない。

Kトレンチ (第15・23図 写真図版 42)

Kトレンチは、試掘調査区(B区)の標高約17m付近の山道部分に設定した。長さ5m、幅1mで、深掘りなどで最大0.4mまで掘り下げている。堆積土は、路面整地層の下層において3層に分けられたが、層厚は薄く、路面整地層を掘り下げると花崗岩の地山面が露出する。

遺構は検出されていない。遺物は陶磁器が出土したが、全て現代の所産であるため、図示していない。

Lトレンチ (第15・23図 写真図版 42)

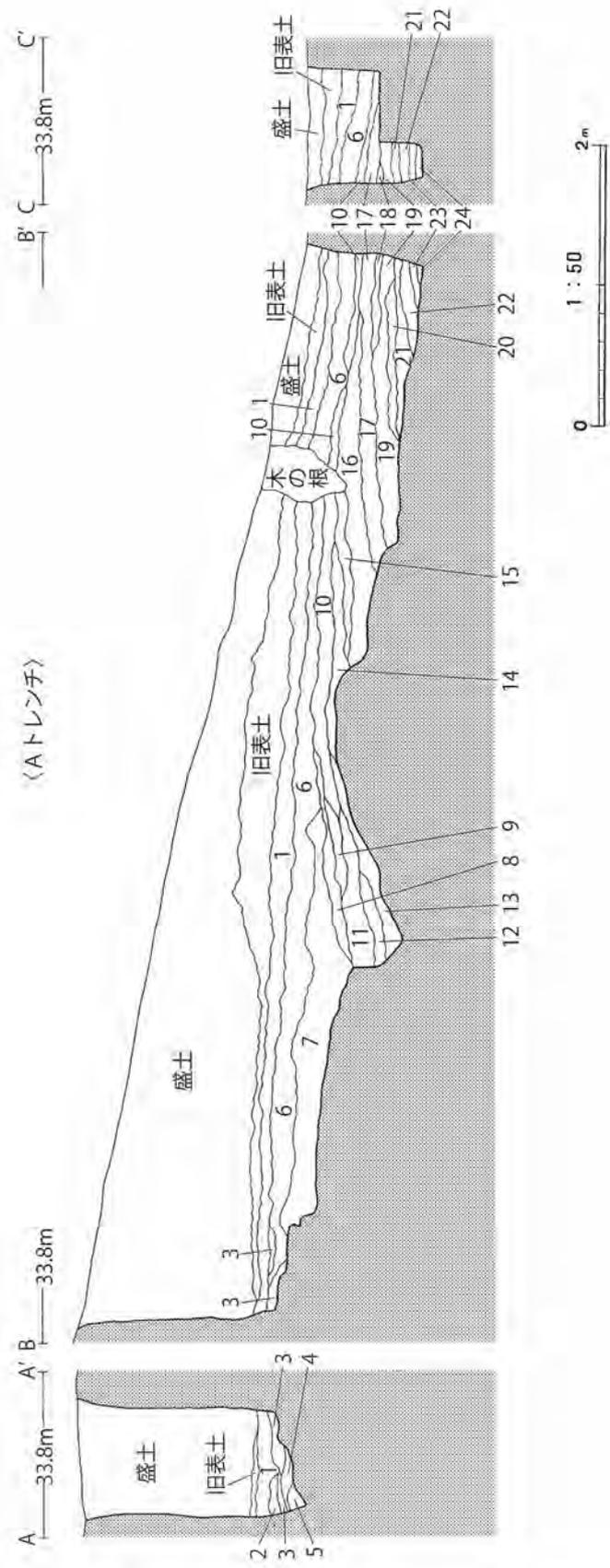
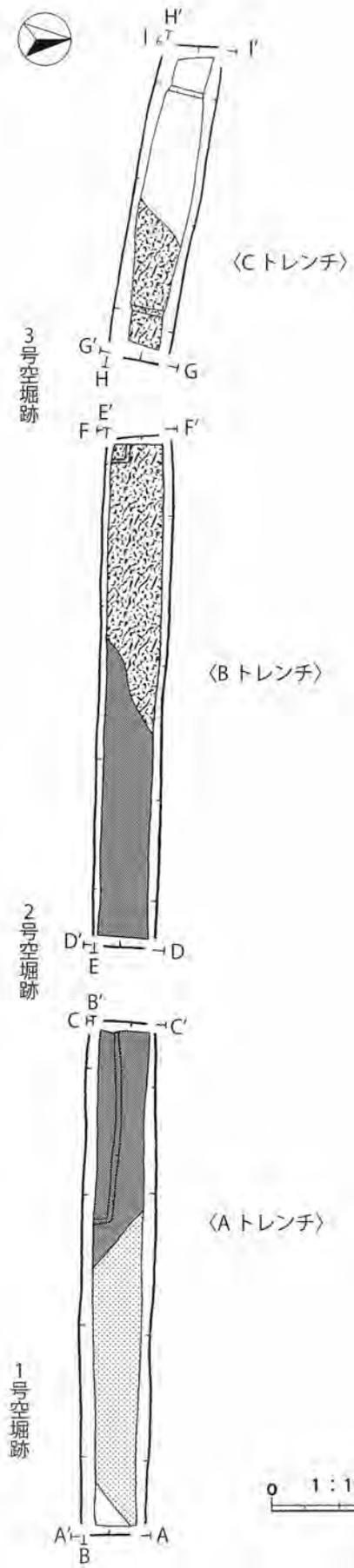
Lトレンチは、試掘調査区(B区)の標高約16m付近の畑として利用している箇所に設定した。長さ5m、幅1mで、深掘りなどで最大1.0mまで掘り下げている。堆積土は、8層に分けられたが、砂混じりの水成堆積の様相を呈している。

遺構は検出されていない。遺物は陶磁器・縄文土器・貝・炭化物・不明鉄製品が出土したが、縄文土器のみ第25図で図示している。第25図1は胴部破片で、R L単節斜縄文が施されている。原位置は留めておらず、現代の土層に混入したものと考えられる。

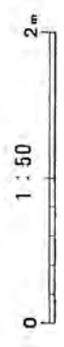
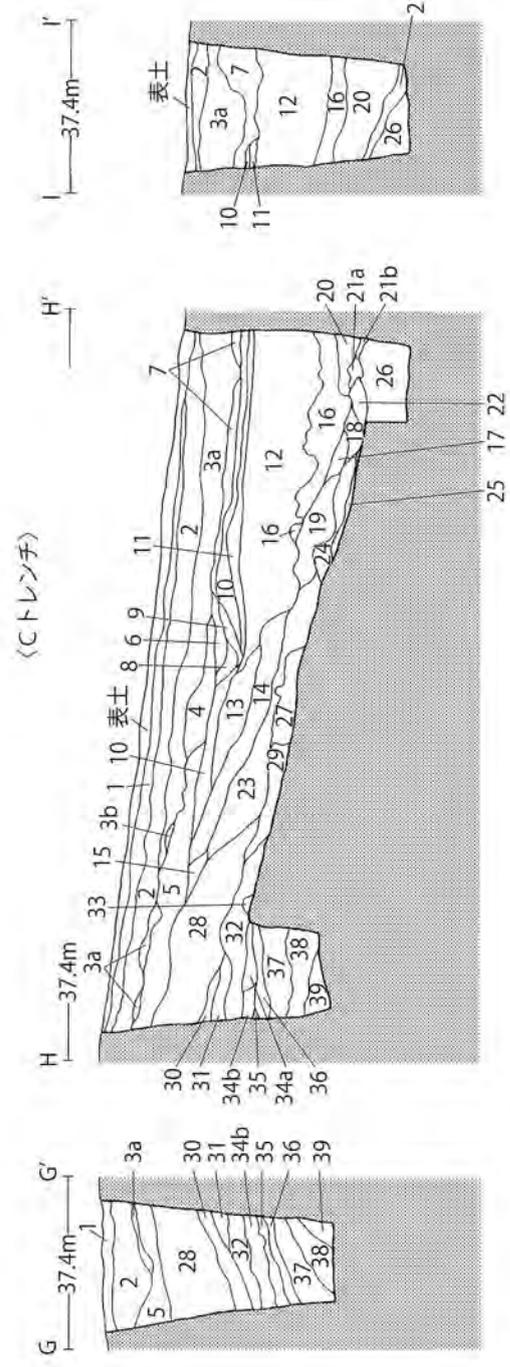
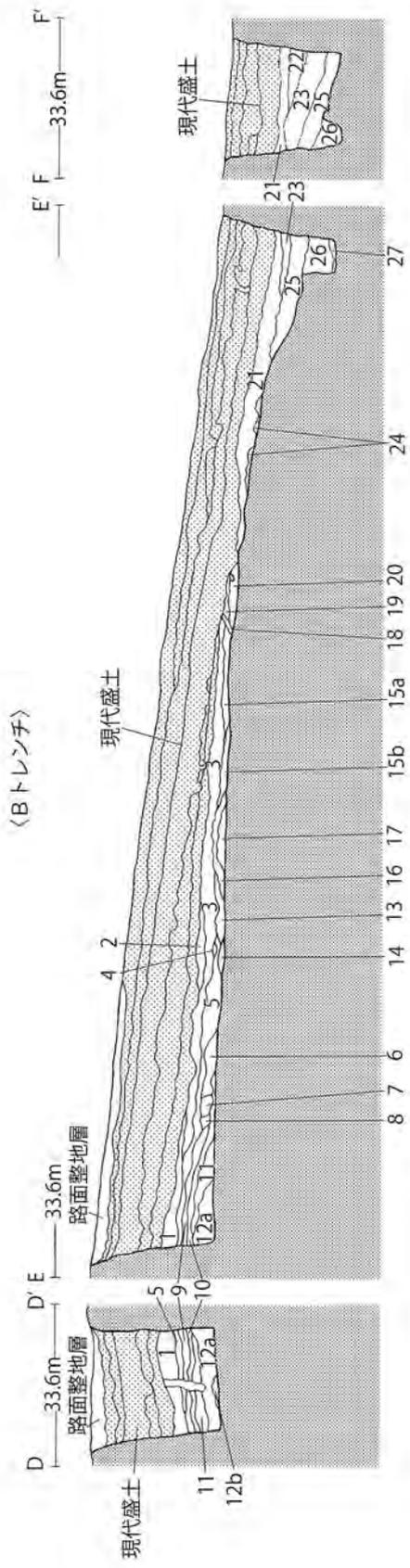
Mトレンチ (第15・24図 写真図版 42)

Mトレンチは、試掘調査区(B区)の標高約15m付近の畑として利用している箇所に設定した。長さ2m、幅1mで、深掘りなどで最大1.2mまで掘り下げている。堆積土は、耕作土の下層において7層に分けられたが、粗い砂混じりの水成堆積の様相を呈している。

遺構は検出されていない。遺物は陶磁器・タイル・釘が出土したが、全て現代の所産であるため、図示していない。



第16図 A・B・Cトレンチ 平面図・断面図



第17図 B・Cトレンチ 断面図

Aトレンチ 土層観察表

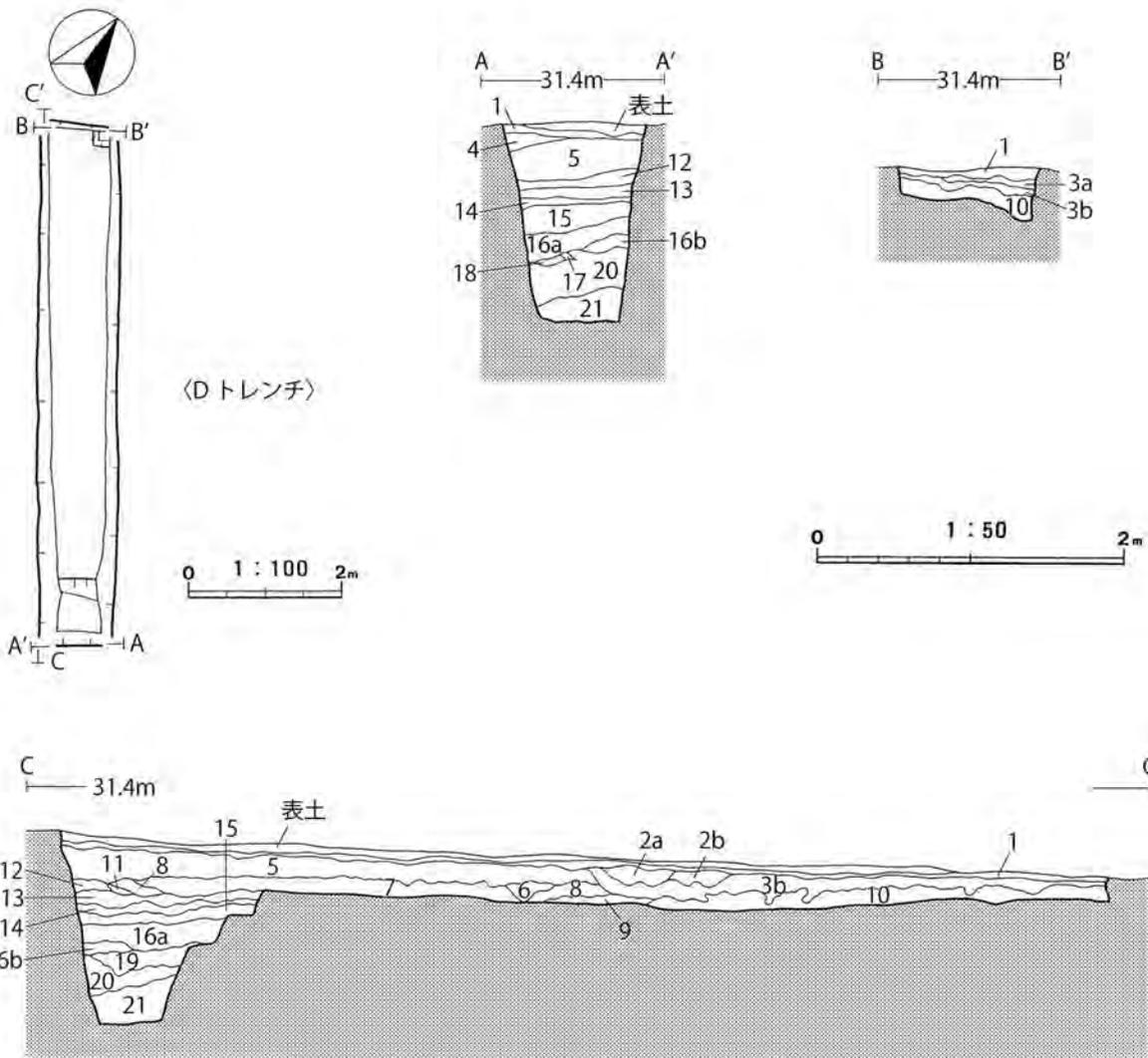
層名	基本土	混入土	しまり	粘性	密度	混入物など
1	5Y7/3 浅黄褐色砂土	白色粒 2%	あり	なし	粗	
2	2.5Y8/2 灰白色砂土	2.5Y4/2 明灰黄粒 3~5%	あり	なし	粗	
3	2.5Y7/3 浅黄褐色砂土	-	あり	なし	粗	
4	5Y6/2 灰オリーブ色砂土	白色砂粒 2%	あり	なし	粗	
5	5Y7/3 浅黄褐色砂土	-	あり	なし	粗	
6	5Y6/3 オリーブ黄色砂土	2.5Y8/4 淡黄褐色 粒 50mmのプロック状	ややあり	なし	やや密	
7	5Y7/3 浅黄褐色砂土	5Y8/1 灰白色粒 5mm 10%	ややあり	なし	やや密	
8	10YR7/1 灰白色砂土	7.5Y4/2 灰褐色有機物混入	あり	なし	やや密	
9	2.5Y7/2 灰白色砂土	10YR4/1 黒灰砂粒 1%	-	-	-	
10	5Y6/2 灰オリーブ色砂土	径 2~3mm 地山由来の白色粒 5%	あり	なし	やや密	
11	2.5Y6/3 にぶい黄褐色土	5Y8/1 灰白色粒 径 3~5mm	ややしまりなし	なし	やや粗	
12	2.5Y4/1 黄褐色砂土	2.5Y3/1 黒褐色炭化物 1%	ややしまりなし	やや密	やや密	
13	10YR7/2 にぶい黄褐色砂土	5Y8/1 径 5~10mm 10%	ややしまりなし	なし	やや粗	
14	5Y7/2 灰白色砂土	径 2~5mm 地山由来の白色粒 15%	あり	なし	やや密	
15	10YR6/1 黒褐色砂土	径 3~10mm 地山由来の白色粒 10% 径 20mm の 10YR4/1 黒褐色有機物ブロック	ややしまりなし	なし	やや密	
16	2.5Y7/1 灰白色砂土	径 3~10mm 地山由来の白色粒 3~10%	-	なし	やや粗	
17	2.5Y7/2 灰白色砂土	径 3~10mm 地山由来の白色粒 3~10%	-	なし	やや粗	
18	10YR3/2 黒褐色砂土	径 2~3mm 地山由来の白色粒 5%	ややしまりあまい	やや密	やや密	
19	10YR6/6 明黄褐色砂土	径 3~10mm 程度の地山由来の白色粒 5%	ややしまりあまい	やや密	やや密	
20	10YR3/2 黒褐色砂土	径 2~5mm 程度の地山由来の白色粒 5%	ややしまりあまい	やや密	やや密	
21	10YR7/4 にぶい黄褐色砂土	径 2~5mm 程度の地山由来の白色粒 5%	ややあまい	やや密	やや密	
22	10YR5/1 黒褐色砂土	10YR3/2 黒褐色砂土が 30~50mm 大のプロック状 径 3~5mm 程度の地山由来の白色粒 10% 混入	ややあまい	やや密	やや密	
23	10YR5/6 黄褐色砂土	径 2~3mm 程度の地山由来の白色粒 5% 混入	やや密	やや密	やや密	
24	10YR3/1 黒褐色砂土	径 2~3mm 程度の地山由来の白色粒 5% 混入	ややしまりない	やや密	やや密	

Bトレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり	粘性	密度	混入物など
1	2.5Y4/2 暗灰黄色砂土	5~10mm 大の 2.5Y3/1 黒褐色土混入	あり	やや密	密	
2	10YR4/2 灰黄褐色砂土	10YR4/3 にぶい黄褐色土層状に混入 地山由来の白色粒 5% 混入	あり	やや密	-	
3	2.5Y4/2 暗灰黄色砂土	10YR4/3 にぶい黄褐色土層状に混入 地山由来の白色粒 5%、10YR5/6 黄褐色土層状	-	-	-	
4	10YR5/6 黄褐色砂土	径 1~2mm 程度の白色粒約 1% 混入	やや密	あまりない	やや密	
5	10YR3/2 黒褐色砂土	-	-	-	-	
6	2.5Y4/2 暗灰黄色砂土	径 3mm 程度の白色粒約 3% 混入	ややしまりない	なし	粗	腐植土系混入
7	10YR3/3 暗褐色砂土	10YR3/1 黒褐色砂粒 1%	しまりない	ない	粗	
8	2.5Y7/6 暗黄褐色土	-	やや密	あり	やや密	
9	2.5Y5/2 暗灰黄色砂土	10YR5/6 黄褐色砂土プロック状	ややしまりあまい	あまりない	やや粗	
10	10YR4/1 黒褐色砂土	-	ややしまりない	あまりない	やや粗	
11	10YR4/5 褐色砂土	10YR4/6 褐色土層 10mm、10YR5/6 黄褐色土層状	ややしまりあまい	あまりない	やや粗	
12 a	10YR3/1 黒褐色砂土	白色 (長石?) 粒 2% 程度、2.5Y7/3 黄褐色砂粒状	ややしまりあまい	やや密	やや密	
12 b	2.5Y6/2 灰黄色砂土	地山由来の白色粒混入	ややしまりない	なし	やや粗	
13	2.5Y5/2 暗灰黄色砂土	10YR5/6 暗黄褐色 腐植に径 10mm 程度 5%、白色粒 2%	ややしまりあまい	ほとんどない	やや粗	
14	10YR3/3 暗褐色砂土	径 3~5mm 程度の白色粒約 3% 混入	ややしまりあまい	あまりない	やや粗	腐植土系混入
15 a	10YR3/2 暗褐色砂土	白色粒	やや密	あまりない	やや粗	腐植土系混入
15 b	10YR4/2 褐色砂土	白色粒	やや密	あまりない	やや粗	腐植土系混入
16	10YR5/4 にぶい黄褐色土	白色粒 1%	やや密	やや密	やや密	
17	10YR4/2 暗灰黄色土	10YR5/4 にぶい黄褐色土層状、白色粒	ややしまりない	あまりない	やや粗	
18	2.5Y8/3~4 浅黄褐色砂土	白色粒	やや密	あまりない	やや粗	
19	2.5Y4/4 黄褐色土	炭化物混入	あり	やや密	やや密	
20	2.5Y6/3 にぶい黄褐色砂土	-	あり	なし	やや密	
21	5Y5/2 灰オリーブ色砂土	-	やや密	なし	やや密	
22	-	-	-	-	-	
23	5Y5/2 灰オリーブ色砂土	-	やや密	なし	やや密	
24	2.5Y7/4 浅黄褐色砂土	地山由来の白色粒混入	ややしまりない	なし	やや粗	
25	10YR7/8 黄褐色砂土	花崗岩バイラン土混じり	やや密	あまりない	粗	
26	2.5Y6/1 灰白色砂土	地山由来の白色粒混入	しまりあまい	あまりない	粗	
27	2.5Y6/2 灰黄色砂土	地山由来の白色粒混入	しまりあまい	やや密	やや粗	

Cトレンチ 土層観察表

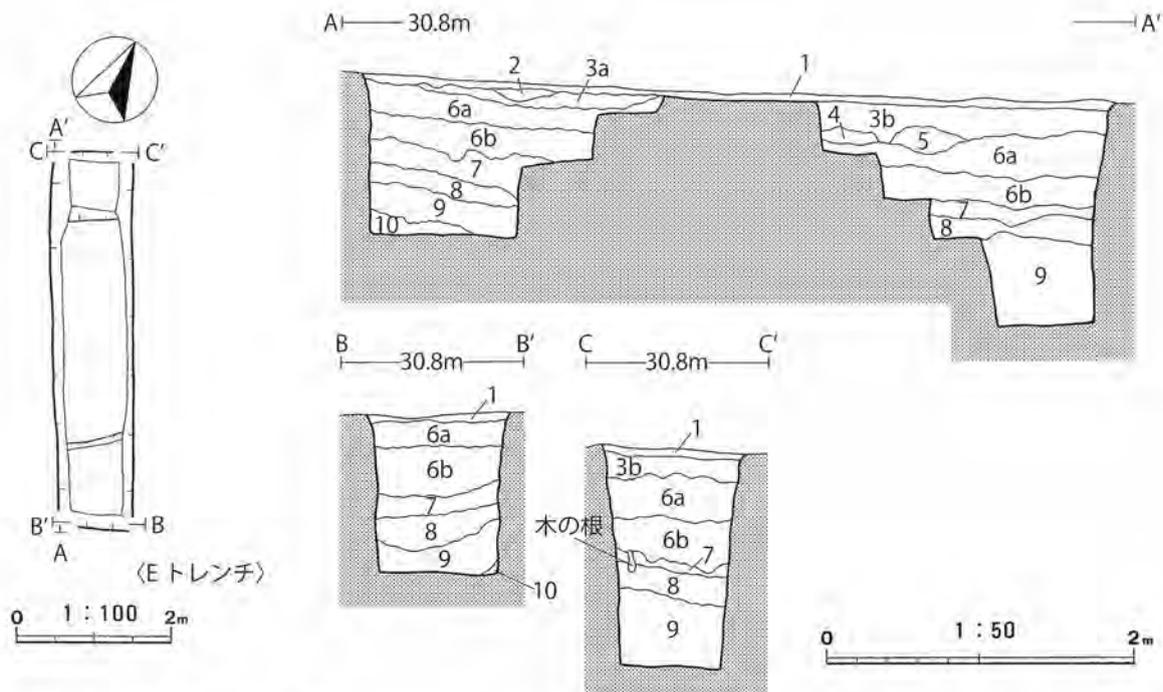
層名	基本土	混入土	しまり	粘性	密度	混入物など
1	2.5Y5/2 暗灰黄色砂土	地山由来の白色粒含む	よくあり	なし	密	2~5mm の炭化物含む
2	2.5Y4/1 黄褐色砂土	地山由来の白色粒・砂粒含む	よくあり	なし	密	炭化物含む
3 a	2.5Y5/1 黄褐色砂土	地山由来の白色粒・砂粒含む	ややしまりあまい	なし	やや粗	炭化物含む
3 b	2.5Y5/1 黄褐色砂土	砂粒含む	しまりない	なし	やや粗	
4	5Y4/1 灰白色土	地山由来の白色粒・砂粒含む	あり	なし	やや密	
5	5Y5/2 灰オリーブ色砂土	地山由来の白色粒・砂粒含む 2.5Y7/2 灰黄色砂土層状	あり	なし	やや密	
6	5Y4/1 灰白色土	砂粒含む	やや密	なし	やや密	
7	2.5Y4/1 灰白色砂土	地山由来の白色粒含む 1%	よくあり	ほとんどなし	密	
8	2.5Y4/1 黄褐色土	地山由来の白色粒・砂粒含む	ややしまりあまい	なし	やや密	
9	7.5Y3/1 オリーブ黒色土	地山由来の白色粒・砂粒含む	ややしまりあまい	なし	やや密	
10	5Y5/2 灰オリーブ色砂土	2.5Y5/2 暗灰黄色土層状 1%	ややしまりあまい	なし	やや密	
11	2.5Y3/1 黒褐色土	砂粒含む	あり	なし	やや密	
12	10YR3/1 黒褐色土	10YR4/3 にぶい黄褐色土層 20×30cm 程度、砂粒含む	ややしまりあまい	やや密	密	
13	2.5Y4/1 黄褐色土	地山由来の白色粒・砂粒含む 2.5Y3/1 黄褐色土 (右方半分)	あり	なし	密	
14	2.5Y4/1 黄褐色土	10YR3/1 黒褐色土 10YR3/3 暗褐色土層状	やや密	なし	密	
15	10YR5/2 灰黄褐色砂土	砂粒含む	ややしまりない	なし	やや密	
16	2.5Y5/2 暗灰黄色土	10YR7/6 明黄褐色土層 10YR2/2 黒褐色土層状 1%	ややしまりない	なし	やや密	
17	2.5Y4/1 黄褐色土	10YR7/6 明黄褐色土層 10mm 程度	ややしまりない	やや密	やや密	
18	2.5Y4/1 黄褐色土	花崗岩 10~20mm 含む	ややしまりない	なし	やや粗	
19	2.5Y5/2 暗灰黄色土	2.5Y4/1 黄褐色土、白色砂粒 1% 含む	ややしまりない	あまりない	やや密	
20	2.5Y7/4 浅黄褐色砂土	2.5Y8/6 黄褐色含む	ややしまりない	-	粗	
21 a	2.5Y8/4 黄褐色砂土	2.5Y6/2 灰黄色土層状	あまりしまりない	-	やや密	
21 b	2.5Y3/1 黄褐色砂土	2.5Y8/4 淡黄褐色土層状	やや密	やや密	やや密	
22	10YR3/1 黒褐色土	2.5Y4/1 黄褐色土層状、砂粒含む	あまりしまりない	-	やや密	
23	2.5Y5/2 暗灰黄色土	2.5Y5/4 黄褐色土、地山由来の白色粒・砂粒含む	ややしまりない	-	やや密	
24	2.5Y8/4 浅黄褐色土	2.5Y5/1 黄褐色土層状、砂粒多く含む	あまりない	-	やや粗	
25	2.5Y3/2 黒褐色土	2.5Y5/2 暗灰黄色土層 10YR4/3 オリーブ褐色土、10YR2/1 黒色土	ややしまりない	やや密	やや粗	
26	10YR2/1 黒褐色土	10YR3/3 暗褐色土層状	あり	やや密	-	
27	2.5Y8/4 黄褐色土	2.5Y4/3 オリーブ褐色土 50~80mm 程度	ややしまりない	ない	粗	
28	2.5Y5/2 暗灰黄色砂土	白色粒・砂粒 3% 含む	よくあり	なし	やや粗	
29	10YR4/3 にぶい黄褐色土	10YR5/6 黄褐色土層状 2%	よつう	やや密	やや密	
30	2.5Y5/6 黄褐色土	2.5Y5/2 暗灰黄色砂土	ややしまりない	なし	やや粗	
31	2.5Y5/3 黄褐色土	砂粒混じり	ややしまりない	なし	やや粗	
32	2.5Y6/4 にぶい黄褐色土	10YR5/6 黄褐色土層状 10YR4/2 灰黄褐色土層状、白色粒・砂粒含む	ややしまりない	やや密	やや粗	
33	10YR3/3 暗褐色土	10YR6/6 明黄褐色土層 3%	よつう	やや密	やや密	
34 a	10YR3/1 黒褐色土	10YR7/6 明黄褐色土層 5mm 10YR2/1 黒褐色土 1%、白色粒・砂粒含む	ややしまりない	あり	やや密	
34 b	2.5Y5/3 黄褐色土	10YR3/1 黒褐色土層状 10YR2/1 黒褐色土 1%、白色粒含む	あまりない	やや密	やや粗	
35	2.5Y6/4 にぶい黄褐色土	2.5Y3/1 黄褐色土層状	あまりない	あまりない	やや粗	
36	10YR3/1 黒褐色土	10YR6/6 明黄褐色土層状 10YR4/4 褐色土層状	やや密	やや密	やや密	
37	10YR4/2 灰黄褐色土	7.5Y7/8 黄褐色土層状 10YR3/1 黒褐色土層状、10YR8/6 黄褐色 25mm 程度	ややしまりない	やや密	やや粗	白色粒
38	10YR6/6 明黄褐色土	10YR4/2 灰黄褐色土層状 10YR3/1 黒褐色土層状、2.5Y8/5/1 黄褐色土層状	ややしまりない	やや密	やや粗	白色粒
39	10YR3/1 黒褐色土	10YR5/3 にぶい黄褐色土層状・砂粒	あり	密	密	人為的堆積



Dトレンチ 土層観察表

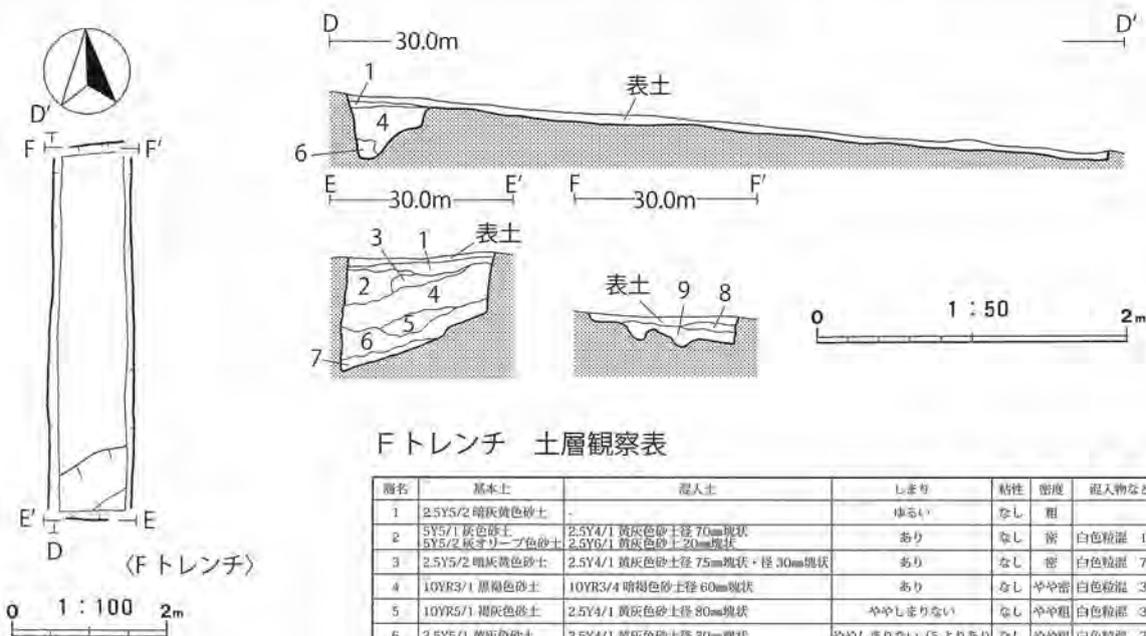
層名	基本土	混入土	しまり	粘性	密度	混入物など
1	10YR3/1 黒褐色砂壤土	-	よくあり	なし	密	白色粒・砂粒混じる
2 a	2.5Y5/2 暗灰黄色砂壤土	2.5Y7/2 灰黄色粒状・2.5Y4/1 黄灰色砂壤土 10YR3/1 黒褐色砂壤土層状	あり	なし	密	
2 b	5Y6/2 灰オリーブ色砂壤土	2.5Y7/2 灰黄色粒状・2.5Y3/1 黒褐色層状	あり	なし	やや密	
3 a	2.5 Y 6/2 灰黄色砂土	10 Y R 8/3 浅黄褐色砂土・10 Y R 3/2 黒褐色層状	あり	なし	やや密	
3 b	10YR4/1 暗灰色砂土	10YR6/2 灰黄褐色砂土塊状	あり	なし	やや密	炭化物粒 白色粒
4	7.5 Y R 3/1 黒褐色砂土	-	あり	なし	密	白色粘泥 砂礫混 1%
5	7.5 Y R 3/2 黒褐色砂壤土	7.5 Y R 7/6 褐色粒状 1%	よくあり	なし	密	白色粒・砂粒・炭化物粒含む
6	7.5 Y R 3/2 黒褐色砂壤土	7.5 Y R 3/1 黒褐色 20mm塊状	あり	なし	密	白色粒・砂粒含む 15mm花崗岩礫含む
7	10YR3/1 黒褐色壤土	10YR5/2 灰黄褐色砂土・7.5 Y R 7/6 褐色粒状 10 Y R 2/1 黒色塊状 10mm	あり	なし	密	炭化物粒 白色粒
8	7.5 Y R 3/2 黒褐色砂壤土	7.5 Y R 6/2 灰褐色層状	ややあり	なし	やや密	白色粒・砂粒含む 15mm花崗岩礫含む
9	2.5Y6/2 灰黄色砂壤土	-	ややあり	なし	やや密	白色粒
10	2.5Y6/2 灰黄色砂土	2.5Y5/2 暗灰黄色塊状	ややあり	なし	やや密	
11	10YR4/1 暗灰色壤土	5Y8/1 ~2 灰色砂土層状	ややしまらない	やや粘	やや粗	
12	10YR3/1 黒褐色砂土	7.5 Y R 7/6 褐色粒状径 5mm	あり	なし	密	炭化物粒 白色粒
13	7.5 Y R 3/1 ~2 黒褐色壤土	7.5 Y R 3/1 黒褐色硬干粒状・塊状 10YR6/2 灰黄褐色砂土層状	ややあり	やや粘	やや密	
14	10YR5/2 灰黄褐色砂壤土	10YR8/2 灰白色砂土層状 (層状)	ややあり	やや粘	やや密	
15	10YR5/2 灰黄褐色砂壤土	2.5Y7/2 灰黄色砂土層状	12よりルーズ	なし	やや密	
16 a	10YR5/2 灰黄褐色砂壤土	7.5 Y R 5/6 明褐色粒状・10YR7/2 に近い黄褐色砂土	ややしまらない	なし	やや密	
16 b	2.5Y7/2 灰黄色砂壤土	10YR4/1 暗灰色壤土径 10 ~ 40mm塊状 20 ~ 25%	ややあり	やや粘	やや密	
17	2.5Y7/2 灰黄色砂壤土	7.5 Y R 3/1 黒褐色壤土塊状	ややしまらない	やや粘	やや密	塊状 水性の堆積物混
18	10YR6/2 灰黄褐色砂壤土	7.5 Y R 3/1 黒褐色壤土塊状	ややしまらない	やや粘	やや密	
19	7.5 Y R 3/1 黒褐色砂壤土	2.5Y7/2 灰黄色砂土層状 7.5 Y R 7/6 褐色粒状	あり	やや粘	やや密	
20	7.5 Y R 3/1 黒褐色壤土	-	あり	やや粘	やや密	白色砂粒直径 3mm 1%以下
21	7.5 Y R 3/1 黒褐色壤土	10YR2/1 黒色壤土径 30 ~ 50mm塊状	ややあり	やや粘	やや密	白色砂粒直径 3mm 1%以下

第 18 図 Dトレンチ 平面図・断面図



Eトレンチ 土層観察表

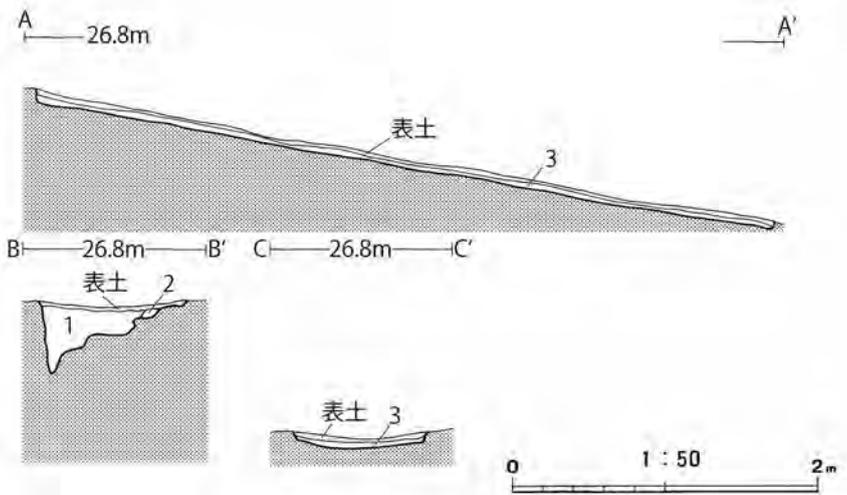
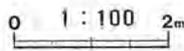
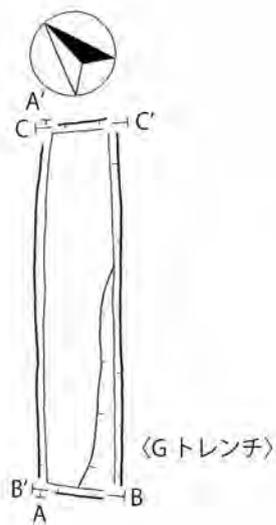
層名	基本土	混入土	しまり	粘性	密度	混入物など
1	7.5YR3/1黒褐色砂壤土	7.5YR3/2黒褐色壤土	しまりない	なし	やや粗	表土：腐植土
2	-	-	-	-	-	-
3a	10YR3/1黒褐色壤土	-	あり	なし	密	白色粘混 10%
3b	10YR4/1褐灰色砂壤土	-	あり	なし	密	白色粘混 15% 炭化物粘含む
4	10YR4/1褐灰色砂壤土	10YR5/1褐灰色砂壤土層状	あり	なし	やや密	白色粘混
5	10YR3/1黒褐色砂壤土	10YR4/1褐灰色砂土層状	あり	なし	やや密	-
6a	7.5YR3/1黒褐色砂壤土	白色粘 7.5YR6/8褐色粘状 黒色炭化物粘	あり	なし	密	白色粘混 15%
6b	7.5YR3/1黒褐色砂壤土	炭化物粘 褐色粘混	あり	なし	なし	白色粘混
7	10YR3/1黒褐色砂壤土	-	ややあり	やや粘	やや密	白色粘混 5%
8	10YR3/1黒褐色砂壤土	10YR5/3にふい黄褐色壤土層状	ややあり	やや粘	やや密	白色粘混
9	10YR2/1黒色粘壤土	10YR4/2灰黄褐色壤土塊状	ややしまりない	やや粘	やや密	白色粘混
10	10YR3/1黒褐色壤土	10YR2/1黒色壤土塊状	ややしまりない	やや粘	やや密	白色粘混



Fトレンチ 土層観察表

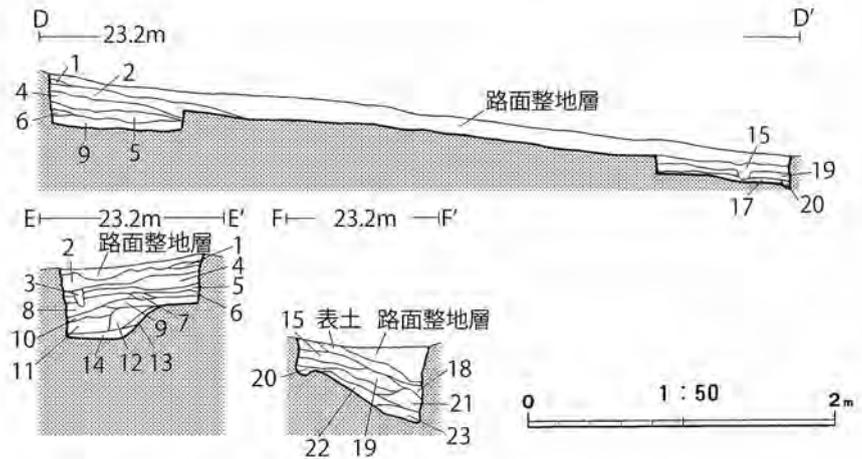
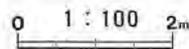
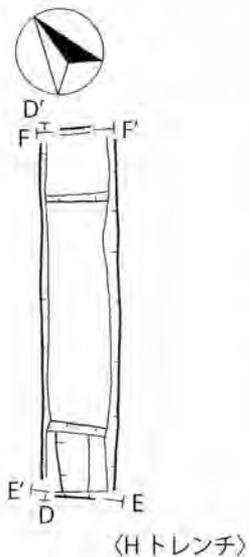
層名	基本土	混入土	しまり	粘性	密度	混入物など
1	2.5Y5/2 暗灰黄色砂土	-	ゆるい	なし	粗	-
2	5Y5/1 灰色砂土	2.5Y4/1 黄灰色砂土径 70mm塊状	あり	なし	密	白色粘混 10%
3	5Y5/2 灰すりーブ色砂土	2.5Y6/1 黄灰色砂土径 20mm塊状	あり	なし	密	白色粘混 7%
4	2.5Y5/2 暗灰黄色砂土	2.5Y4/1 黄灰色砂土径 75mm塊状・径 30mm塊状	あり	なし	やや密	白色粘混 3%
5	10YR3/1 黒褐色砂土	10YR3/4 暗褐色砂土径 60mm塊状	あり	なし	やや密	白色粘混 3%
6	2.5Y5/1 黄灰色砂土	2.5Y4/1 黄灰色砂土径 80mm塊状	ややしまりない (5よりあり)	なし	やや粗	白色粘混 3%
7	10YR5/1 褐灰色砂土	2.5Y4/1 黄灰色砂土径 30mm塊状	ややしまりない	なし	粗	-
8	2.5Y5/3 黄褐色砂土	2.5Y2/1 黒色壤土径 10mm塊状	あり	なし	やや密	白色粘混 5%
9	2.5Y7/3 浅黄色砂土	-	ややあり	なし	やや密	-

第19図 E・Fトレンチ 平面図・断面図



Gトレンチ 土層観察表

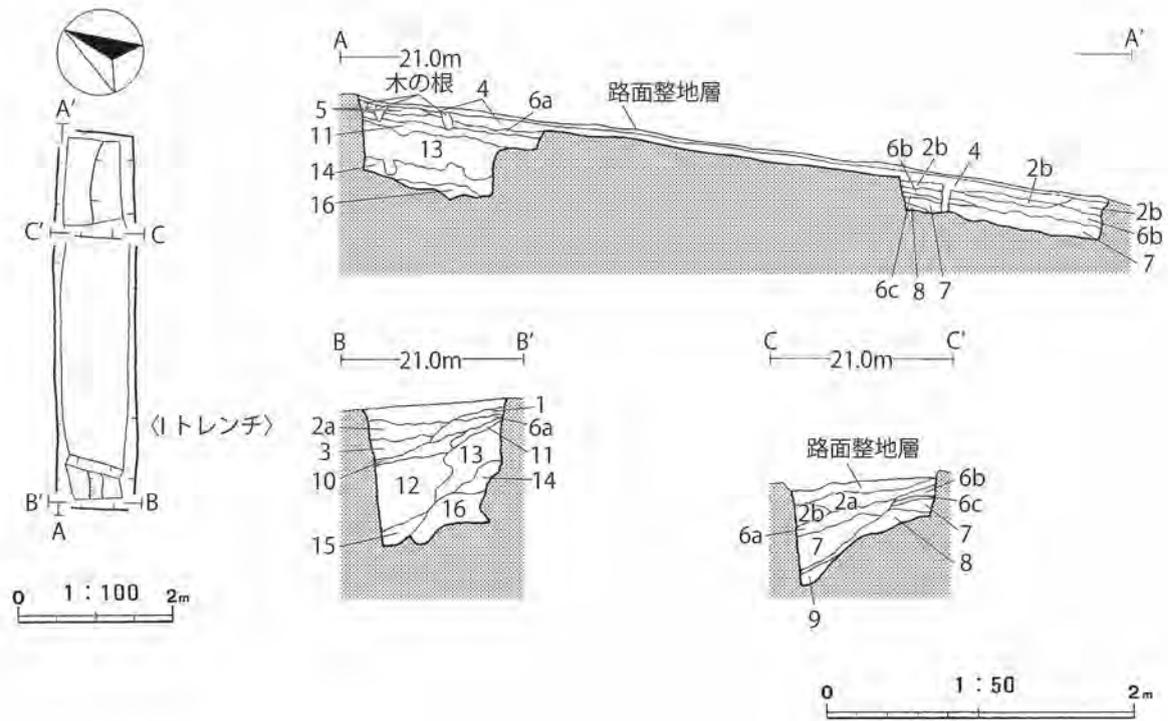
層名	基本土	混入土	しまり	粘性	密度	混入物など
1	10YR3/2 黒褐色砂壤土	10YR8/2 灰白色	よくあり/かない	なし	密	白色粒混 5%
2	2.5Y5/3 黄褐色砂壤土	-	ややしまらない	なし	粗	白色粒わずかに混入
3	10YR5/1 褐灰色シルト質壤土	2.5Y4/1 黄灰色砂土径 80mm塊状	-	-	-	-



Hトレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり	粘性	密度	混入物など
1	5Y5/1 灰色砂壤土	-	ややあり	なし	やや密	-
2	2.5Y4/1 黄灰色砂壤土	2.5Y3/1 黄褐色粒状	あり	なし	やや密	10mm程度の角礫含む
3	10YR5/3 におい黄褐色砂壤土	-	しまりない	なし	粗	-
4	2.5Y5/1 黄灰色砂壤土	2.5Y3/1 黒褐色塊状	あり	なし	やや密	砂粒含む
5	5Y6/1 灰色砂壤土	2.5Y3/1 黒褐色砂壤土	ややあり	なし	やや粗	-
6	10YR4/1 褐灰色砂壤土	2.5Y3/1 黒褐色砂壤土	ややあり	なし	やや粗	-
7	10YR7/4 におい黄褐色砂土	-	ややあり	なし	粗	-
8	10YR3/1 黒褐色砂壤土	-	ややしまらない	なし	粗	-
9	10YR2/3 黒褐色壤土	-	ややあり	ややあり	やや粗	-
10	10YR3/1 黒褐色壤土	-	ややしまらない	ややあり	やや密	-
11	10YR3/1 黒褐色砂壤土	-	ややしまらない	ややあり	やや密	-
12	10YR4/2 灰黄褐色砂壤土	径 5mm程度の茶褐色の砂粒 10%	あまりしまらない	なし	粗	-
13	10YR7/4 におい黄褐色砂土	-	しまりない	なし	粗	-
14	10YR2/2 黒褐色砂壤土	直径 3 ~ 5mmの砂粒混入	しまらない	なし	粗	-
15	5Y5/2 灰オリブ色砂壤土	2.5Y8/3 淡黄色径 30mm 10%	ややあり	なし	やや密	-
16	-	-	-	-	-	-
17	10YR6/6 明黄褐色砂土	-	ややあり	なし	粗	-
18	10YR3/4 暗褐色砂壤土	10YR4/4 褐色砂土塊状	ややあり	なし	やや粗	-
19	10YR3/2 黒褐色砂壤土	砂粒	ややあり	ややあり	やや粗	-
20	10YR4/2 灰黄褐色砂壤土	-	ややあり	なし	やや粗	-
21	10YR3/4 暗褐色壤土	-	ややあり	ややあり	やや粗	-
22	10YR4/3 におい黄褐色砂壤土	-	ややしまらない	なし	やや粗	-
23	10YR4/2 灰黄褐色砂土	10 Y R 7/8 黄褐色砂土	ややしまらない	なし	やや粗	-

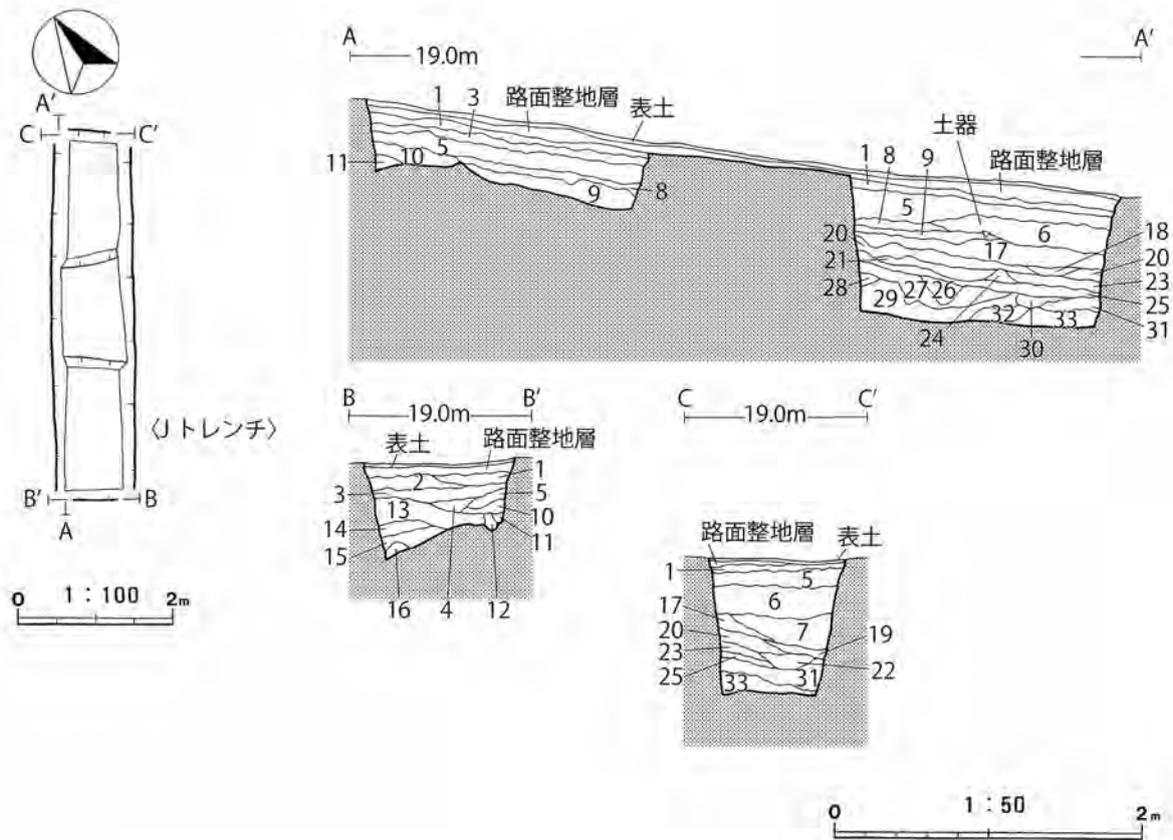
第 20 図 G・Hトレンチ 平面図・断面図



Ⅰトレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり	粘性	密度	混入物など
1	10YR4/2 灰黄褐色砂壤土	10YR7/4 にふい黄褐色膠状	あり	やや粘	密	
2 a	10YR4/1 褐灰色礫土	10YR6/2 灰黄褐色径 10mm 塊状	あり	やや粘	やや密	白色粘泥 3%
2 b	10YR5/2 灰黄褐色砂壤土	10YR7/3 にふい黄褐色径 10 ~ 3mm 粒状に	ややあり	あまりない	やや粗	
3	10YR5/1 褐灰色礫土	10YR3/2 黒褐色径 5mm 塊状	あり	やや粘	やや粗	
4	10YR4/1 褐灰色砂壤土	-	ややあり	あまりない	やや密	
5	2.5Y6/2 灰黄色砂壤土	-	ややあり	あまりない	やや密	
6 a	5 Y 8/2 灰白色礫土	10YR2/1 黒色礫土 (左方層状) 2.5 Y 7/1 灰白色塊状	ややあり	やや粘	やや密	白色粘多量
6 b	10YR5/3 にふい黄褐色砂壤土	10YR8/2 灰白色粒状 3%	ややしまらない	ない	粗	
6 c	10YR3/2 灰白色砂壤土	10YR4/1 褐灰色粒状	しまらない	ない	粗	
7	10Y3/2 黒褐色砂壤土	10YR3/1 黒褐色	ややしまらない	ない	やや粗	
8	10Y2/1 黒色砂壤土	10YR4/1 褐灰色	しまらない	ない	やや粗	
9	10YR4/1 褐灰色礫土	10YR7/1 灰白色径 50mm 塊状	しまらない	やや粘	やや粗	
10	5 Y 8/2 灰白色礫土	10YR5/1 褐灰色礫土 30 × 50mm 塊状 10 Y R 6/1 褐灰色砂壤土	ややしまらない	やや粘	やや粗	
11	10YR4/1 褐灰色礫土	-	ややあり	やや粘	やや密	
12	5 Y 8/2 灰白色礫土	2.5Y6/1 黄灰色	あまりしまらない	あまりない	やや粗	
13	10YR4/1 褐灰色礫土	2.5 Y 7/3 浅黄色径 20mm 塊状	ややあり	やや粘	やや密	白色粘泥 3%
14	10YR4/1 褐灰色礫土	10YR3/1 黒褐色土径 20mm 塊状	ややあり	やや粘	やや粗	白色粘泥 5%
15	2.5Y5/1 黄灰色礫土	-	あまりしまらない	やや粘	やや粗	
16	10YR2/1 黒色礫土	10YR4/1 褐灰色礫土、埋山の花崗岩小礫 10mm 含む	ややあり	やや粘	やや粗	白色粘泥 5%

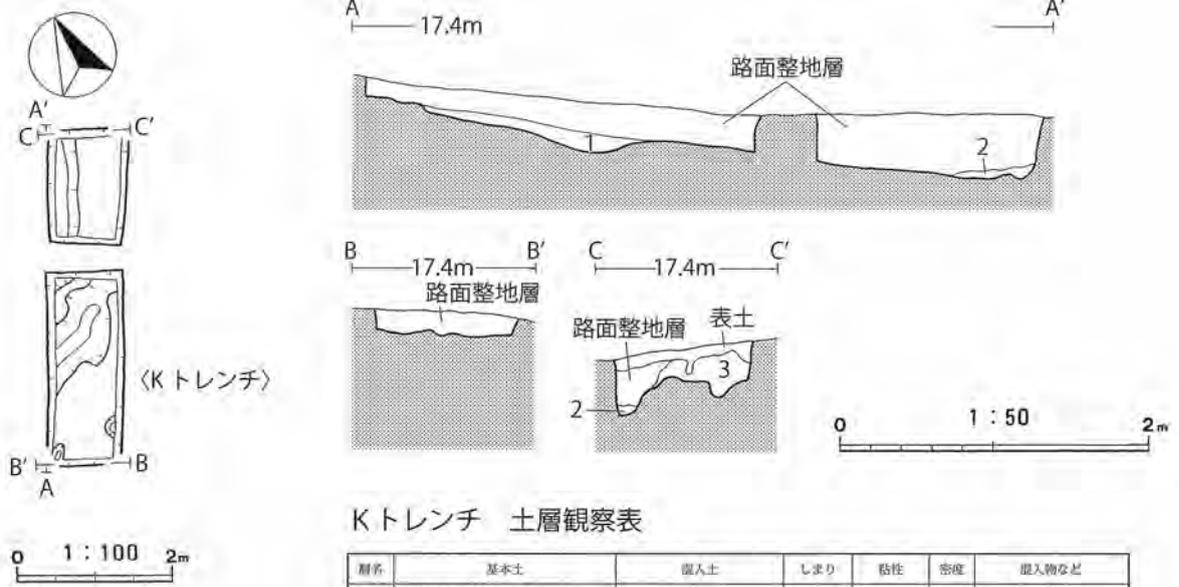
第 21 図 Ⅰトレンチ 平面図・断面図



Jトレンチ 土層観察表

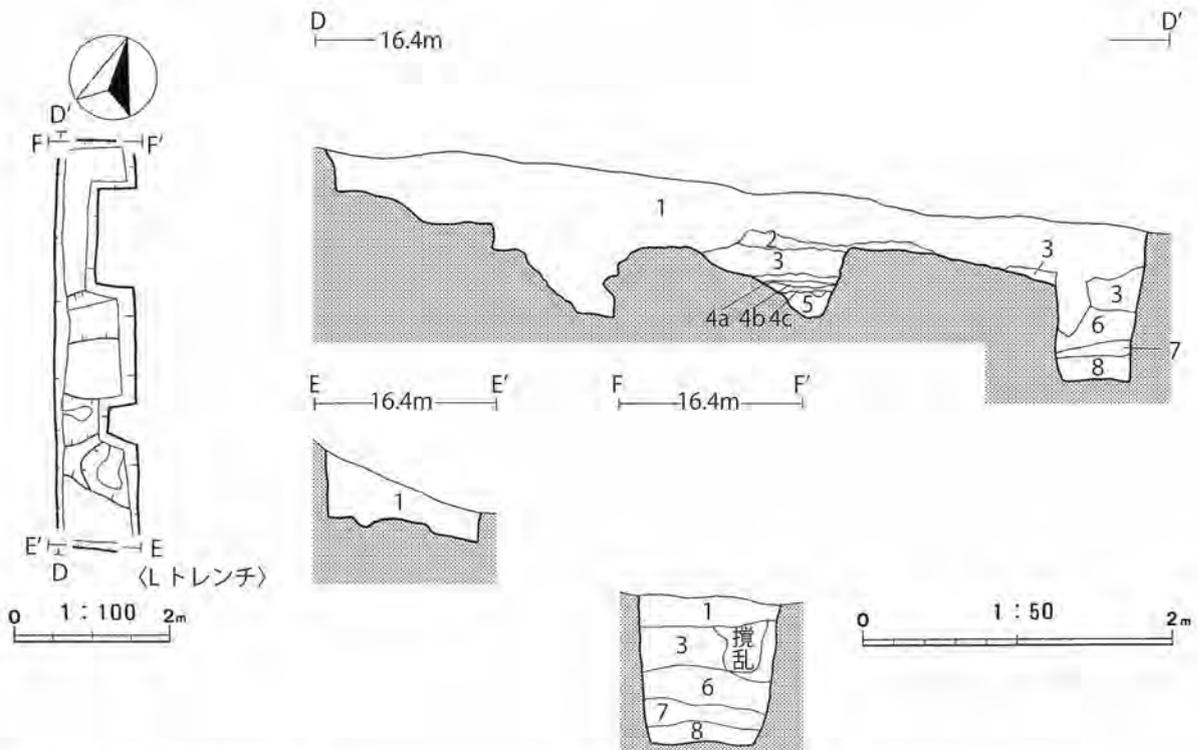
層名	基本土	混入土	しまり	粘性	密度	混入物など
1	2.5Y5/4 黄褐色砂壤土	10YR4/2 灰黄褐色砂壤土塊状径 30mm	あり	あまりない	やや密	
2	10YR4/2 灰黄褐色砂壤土	-	あり	やや粘	粗	炭化物粒混入
3	2.5Y5/4 黄褐色砂壤土	-	あり	なし	密	
4	2.5Y4/4 オリーブ褐色砂壤土	-	ややあり	なし	やや粗	
5	2.5Y5/2 明黄褐色砂壤土	-	ややあり	なし	やや粗	
6	10YR3/3 暗褐色壤土	2.5Y4/4 オリーブ褐色砂土層状	あり	やや粘	やや密	炭化物粒を含む
7	10YR3/2 黒褐色壤土	10YR6/3 灰黄褐色砂土層状	ややしまりない	やや粘	やや密	腐植土系の土壌
8	10YR3/3 暗褐色砂壤土	-	ややあり	やや粘	やや粗	
9	10YR3/2 黒褐色砂壤土	-	ややしまりない	やや粘	やや密	地山から遊離した礫直径 10mm大混じる
10	7.5Y5/2 灰オリーブ色砂壤土	-	ややあり	なし	やや粗	
11	2.5Y6/3 ~ 4 灰黄褐色砂壤土	2.5Y7/4 浅黄褐色塊状径 20mm	ややあり	あまりない	やや密	
12	2.5Y5/3 黄褐色砂壤土	-	しまらない	なし	やや粗	
13	10YR4/2 灰黄褐色砂壤土	-	ややあり	なし	やや粗	
14	10YR4/2 灰黄褐色砂壤土	-	ややあり	なし	やや粗	
15	2.5Y8/3 淡黄褐色砂壤土	-	ややしまりない	ない	やや粗	
16	10YR3/2 黒褐色砂壤土	-	あまりしまりない	あまりない	やや密	
17	10YR2/2 黒褐色壤土	10YR8/3 浅黄褐色砂土	ややしまりない	やや粘	やや密	腐植土系の土壌
18	10YR2/2 黒褐色壤土	-	ややしまりない	やや粘	やや密	腐植土系の土壌
19	10YR2/1 黒色壤土	-	ややしまりない	やや粘	やや密	炭化物粒含む 腐植土系の土壌
20	10YR3/2 黒褐色砂壤土	-	ややしまりない	やや粘	やや密	腐植土系の土壌
21	10YR3/2 黒褐色砂壤土	-	ややしまりない	やや粘	やや密	腐植土系の土壌
22	10YR3/2 黒褐色砂壤土	10YR2/1 黒色壤土径 30mm塊状	-	やや粘	やや密	腐植土系の土壌
23	10YR3/3 黒褐色砂壤土	-	ややしまりない	やや粘	やや密	腐植土系の土壌
24	2.5Y4/3 オリーブ褐色砂土	-	ややしまりない	なし	やや粗	
25	10YR3/2 黒褐色砂壤土	10YR2/1 黒色層状・塊状	ややしまりない	やや粘	やや密	腐植土系の土壌
26	10YR2/2 黒褐色壤土	10YR5/2 灰黄褐色砂土	ややしまりない	やや粘	やや密	腐植土系の土壌
27	10YR3/2 黒褐色砂壤土	10YR6/8 明黄褐色砂粒状	ややしまりない	やや粘	やや密	腐植土系の土壌
28	10YR3/2 黒褐色砂壤土	-	ややしまりない	やや粘	やや密	腐植土系の土壌
29	2.5Y4/3 オリーブ褐色砂土	10YR6/6 明黄褐色径 5mm地山から遊離の礫の堆積	しまらない	なし	粗	
30	10YR4/2 灰黄褐色砂壤土	10YR3/1 黒褐色壤土	ややしまりない	やや粘	やや密	腐植土系の土壌
31	10YR3/3 暗褐色砂壤土	10YR7/6 明黄褐色礫多く含む	ややしまりない	なし	-	
32	2.5Y4/3 オリーブ褐色砂土	-	しまらない	なし	粗	砂礫層
33	2.5Y4/3 オリーブ褐色砂壤土	10YR6/6 明黄褐色径 10mm地山から遊離の礫の堆積	しまらない	なし	粗	砂礫層

第22図 Jトレンチ 平面図・断面図



Kトレンチ 土層観察表

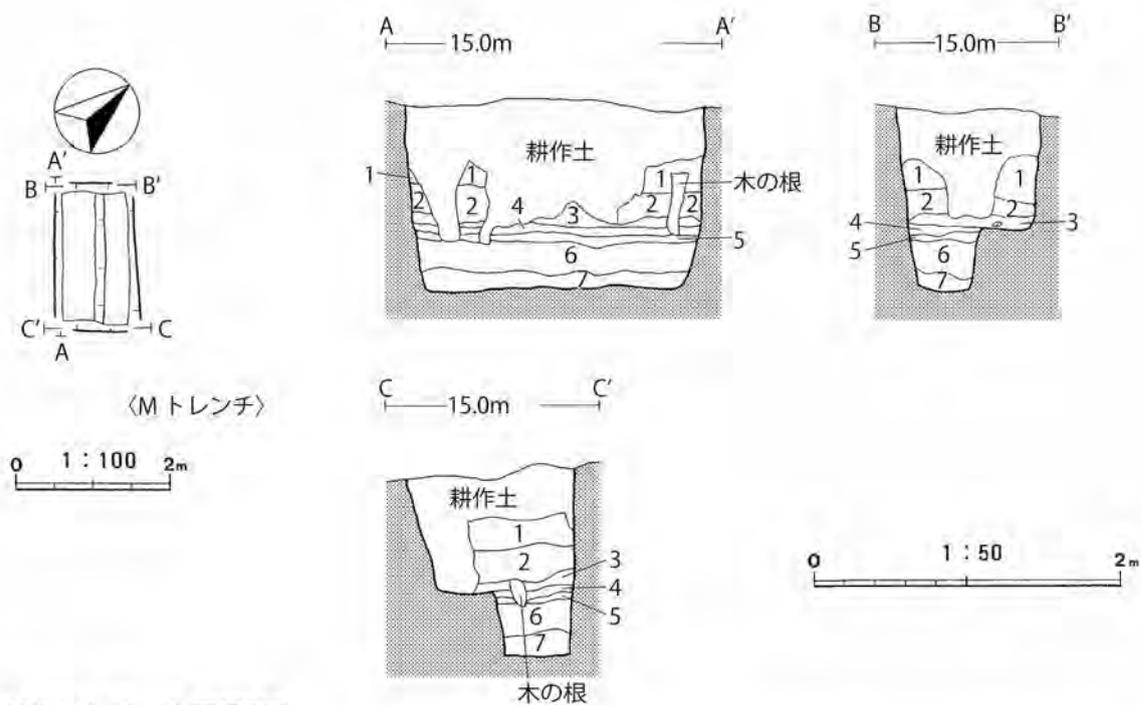
層名	基本土	混入土	しまり	粘性	密度	混入物など
1	10YR3/3 暗褐色砂壤土	-	あり	ない	やや粗	
2	10YR4/3 に近い黄褐色砂壤土	-	あり	ない	やや粗	
3	2.5Y8/6 黄褐色砂土	径 2~5mm	しまりない	なし	粗	



Lトレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり	粘性	密度	混入物など
1	10YR5/6 黄褐色砂壤土	10YR4/2 灰黄褐色砂壤土塊状(下部)	ややしまりない	ない	やや粗	
2	10YR2/3 黒褐色砂壤土	10YR2/1 黒色壤土塊状	ややあり	やや粘	やや密	
3	10YR4/2 灰黄褐色砂壤土	砂混じる	ややあり	なし	やや粗	
4 a	10YR2/1 黒色壤土	砂混じる	かたくなり	やや粘	やや密	
4 b	2.5Y4/4 オリーブ褐色砂土	地山遺物の粒径 10mm 含む	ややあり	なし	やや密	
4 c	10YR2/1 黒色壤土	砂混じる	ややあり	やや粘	やや密	
5	10YR2/2 黒褐色壤土	-	あり	やや粘	やや密	
6	10YR2/3 黒褐色砂壤土	-	あり	やや粘	やや密	白色乾泥
7	10YR3/3 暗褐色壤土	径 2~5mm の砂礫・2.5Y7/3 黄褐色砂土塊状	ややあり	やや粘	やや密	
8	10YR2/2 黒褐色壤土	径 2~5mm の砂礫	かたくなり	粘あり	密	

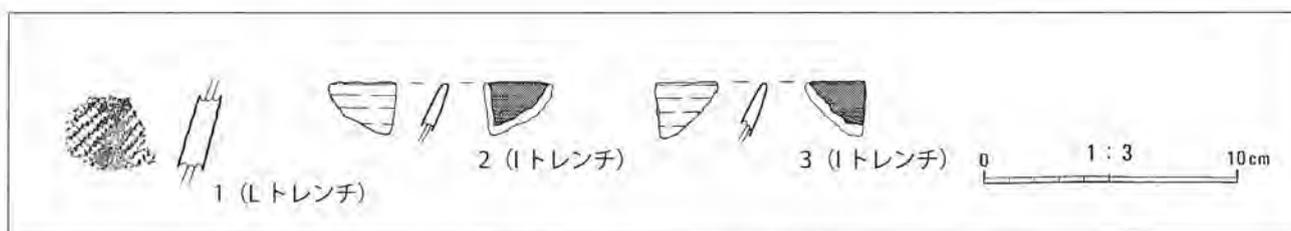
第 23 図 K・Lトレンチ 平面図・断面図



Mトレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり	粘性	密度	混入物など
1	10YR2/2 黒褐色壤土	10YR4/3 にふい黄褐色壤土 1~2% 径 2~10mm の礫含む	ふつう	あり	やや密	
2	10YR3/2 黒褐色壤土	10YR2/2 黒褐色壤土塊状やしまりなし 径 2~10mm の礫含む	ふつう	あり	やや密	
3	10YR6/3 ~ 6/4 にふい黄褐色砂土	礫 (50 × 25 × 20mm・20 × 15 × 10mm の花崗岩)	あまりしまらない	なし	やや粗	
4	10YR3/2 黒褐色砂壤土	10YR3/1 黒褐色砂壤土	あまりしまらない、3まちはあり	やや粘	やや密	
5	10YR1.7/1 黒色粘壤土	10YR3/2 黒褐色壤土径 10mm 程度・径 8mm の礫 1 点	あり	あり	密	
6	10YR2/1 黒色シルト質粘壤土	層下半に花崗岩由来の礫塊の埋積割合約 15%	あり	あり	密	最大 20 × 10 × 10mm の花崗岩礫含む
7	10YR2/1 黒色シルト質粘壤土	花崗岩由来の礫塊を含む	6よりあり	あり	6より密	

第 24 図 Mトレンチ 平面図・断面図



第 25 図 試掘調査 出土遺物

第 2 表 土器観察表

挿図番号	番号	出土地点	層位	部位	文 様 (外面)	内面調整	胎 土	備 考
25	1	B区 Lトレンチ	中央 黒色土	胴部	R L 単節縄文	内面ナデ	砂粒含む	縄文土器
25	2	B区 Iトレンチ	黒灰色土	口縁部	ヨコナデ (非ロクロ)	内面ヘラミガキ、黒色処理	砂粒含む	土師器坏
25	3	B区 Iトレンチ	灰黒色土	口縁部	ヨコナデ (非ロクロ)	内面ヘラミガキ、黒色処理	砂粒含む	土師器坏

第6章 まとめ

都市防災総合推進事業（公園整備）に伴い、平成25年度に沼里館跡の内容確認調査及び試掘調査を実施した。調査の結果、館の主郭部分から掘立柱建物跡が検出され、さらに盛土・切土造成により平坦部を作り出していたことが分かった。また、試掘調査では、館の縄張り図において「空堀」とされていた地点で、実際に空堀が3条確認されるなど、館の構造をうかがい知ることのできる遺構が検出されている。ちなみに、調査原因者である都市計画課との協議により、工法を変更することで本調査を回避し、遺構はそのまま埋め戻し保存することとなった。

ここでは、沼里館の主郭部分から検出された掘立柱建物跡について詳述し、さらにそれらを踏まえ、市内の城館遺跡について概観し、まとめとしたい。

1. 沼里館跡において検出された掘立柱建物跡について

掘立柱建物跡が検出された内容確認調査区（A区）は、標高約40m～42mの東西方向に伸びた尾根の先端部に位置している。現在、尾根上には平坦部が広がっているが、掘立柱建物跡が検出された2～3m西には、掘立柱建物跡と軸を同じくする高さ約40cmの段差が検出されている。この段差は建物跡を構築する際に平坦部を造り出した切土工事と考えられ、南東―北西の方向に長さ21mの範囲で確認された。未検出の部分もあるため、さらに広い範囲で平坦部を造り出している可能性がある。

この他、内容確認調査区（A区）の南端では、盛土の痕跡が確認された。Dトレンチ西端とGトレンチの2箇所検出され、南側へ急激に落ち込む自然地形に対して、地山由来の土で盛土を行っていた。前述の切土造成と一体の土木工事と考えられ、切土することで掘削された地山（風化花崗岩）の土を斜面に盛土し、建物跡を建築する際の平坦部を造り出したものと推測される。

このようにして、平坦部を造り出し建築された掘立柱建物の柱穴は、今回の調査で合計29基検出された。本文中でも言及しているが、発掘調査現場の判断では、3棟の掘立柱建物跡と捉えて報告していたが、資料整理作業を進める中で、2棟ないし1棟の掘立柱建物跡と想定されるのではないかと推測した。その再構成した柱穴の配置は、南側に梁行4間、桁行3間の長方形の建物があり、その北側に梁行3間、桁行2間の側柱の建物を取りついている構造である。また3号掘立柱建物跡とした柱穴は梁行1間以上、桁行1間の側柱の建物跡と考えられる。このことは、1号掘立柱建物跡と2号掘立柱建物跡の柱穴の規模が同じで、柱間寸法も全て同一であることから裏付けられる。



第26図 掘立柱建物跡 位置模式図

中世の建物跡を集成した高橋與右衛門氏（2003年）の分類によると、このような柱穴配置は、I型一④の「身舎内に間仕切り柱のほか一部に床束状の内柱を配置し、内部を土間床と板張床の共存を推測させる建物」に最も類似性があり、時期的には「中世後半期の主屋的建物」とされている。田村忠博氏の『古城物語』（1986年）によると、沼里館は、館主・築造年代ともに不明であるとされているが、『東奥一戸系譜略』や『東奥古伝』から永正年間（1510年代）に仙徳氏別家の一戸信濃が津軽石にきて築いたが、狭小のため大永二年（1522年）に弘川へ移ったとされている。このように中世後半期、16世紀という年代観は、今回の調査で分かった建物の構造とも合致するのではないかと考えられる。

2. 宮古市内の中世城館について

中世城館は、鎌倉時代から室町時代、戦国時代ごろに築かれたもので、城館の中心部には、建物が建てられ、周囲にはこれを守るための堀や人工的な急斜面である切岸が造られる例が多くみられる。宮古市内においては約50箇所の城館遺跡が確認されており、一部では発掘調査も行われている。

発掘調査された遺跡としては、磯鶏館山遺跡や山口館跡、金浜館跡、千徳城遺跡群、弘川館跡などが挙げられる。特に室町時代頃の館跡と考えられる磯鶏館山遺跡は、島状に突き出た小山を全域にわたって調査しており、館の全体像を知ることができる貴重な成果となっている。さらに山口館跡からは、平場状の遺構や空堀が検出され、鍛冶炉等の鉄生産に関わる遺構も見つかっている。金浜館跡からは、なだらかな斜面を平らに切土し、整地したところに掘立柱建物跡が検出されており、今回の沼里館の主郭構造と類似する点がみられる。戦国時代頃とされており、時期的にも近接している。また、沼里館が狭小なため、弘川に移ったとされる弘川館跡も一部発掘調査されているが、遺構外から16世紀代の白磁片や染付碗が出土していることが注目される。なお、沼里館からは館の機能していた同時代の遺物は出土していないが、上述の城館遺跡からは、陶磁器や鉄製品などが出土している。特筆されるのが、金浜館跡から出土した完全な形の天目茶碗で、美濃地方（岐阜県）の窯で作られたものとされ、中世の人々の生活や交易を知る手がかりとなる貴重な資料といえる。

3. 総括

今回の都市防災総合推進事業（公園整備）に伴う沼里館跡の内容確認調査・試掘調査では、掘立柱建物跡や空堀跡が検出され、中世城館とされる沼里館の一端がみえてきた。特に沼里館の主郭とされた地点から検出された掘立柱建物跡や切土・盛土造成などは、館に付随する遺構と考えられ、不明な点が多い宮古の中世史に新たな資料が加わったといえる。

東日本大震災からの復興事業に伴う発掘調査によって、近年新たな発見が相次ぎ、宮古の歴史が塗り替えられている。今後、それらの成果が発掘調査報告書としてまとめられ、資料化されることにより、新たな宮古の歴史をより詳しく語るができるようになると思われる。

<引用・参考文献>

1986 宮古地方の中世史『古城物語』田村忠博

2001 『宮古の遺跡発掘史—20世紀のみやこ考古学—』第12回ふるさと歴史展 図録

2003 「中世の建物跡」高橋與右衛門 『戦国時代の考古学』高志書院

2007 『遺跡から見る宮古の中世—閉伊川流域の城館跡—』第3回ふるさと博物館企画展 図録

※埋蔵文化財発掘調査報告書は紙幅の関係で割愛

写真図版



1. 沼里館跡 遠景 (東→)



2. 沼里館跡 内容確認調査区 (A区) (南東→)



3. 沼里館跡 内容確認調査区（A区） 調査風景（南東→）



4. 1号掘立柱建物跡 柱穴検出状況（東→）



5. 2号掘立柱建物跡 柱穴検出状況 (東→)



6. 3号掘立柱建物跡 柱穴検出状況 (東→)



7. 1号掘立柱建物跡 柱穴断面 (東→)



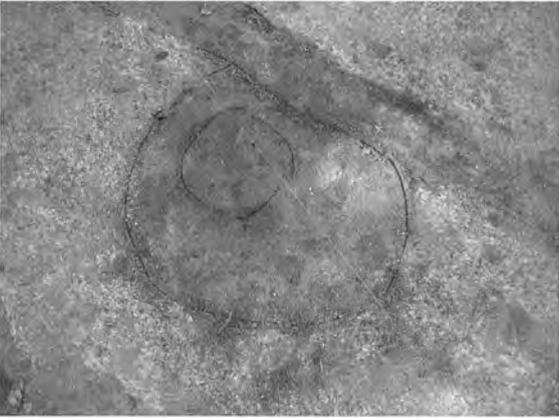
8. 2号掘立柱建物跡 柱穴断面 (南→)



9. 3号掘立柱建物跡 柱穴断面 (東→)



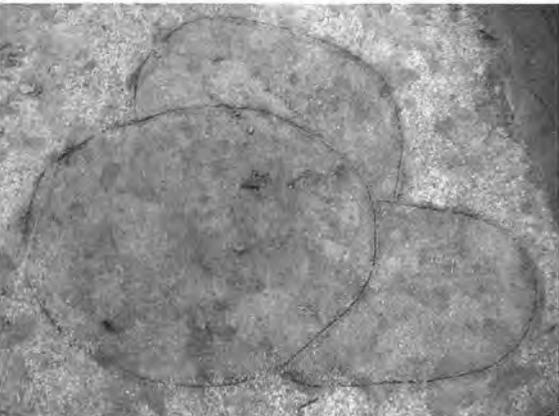
10. 1号焼土遺構 検出状況 (南→)



11. 柱穴検出 (2号掘立柱建物跡p 8) (南→)



12. 柱穴検出 (1号掘立柱建物跡p 2) (南→)



13. 柱穴検出 (2号掘立柱建物跡p 10) (東→)



14. 炭化物分布範囲 検出状況 (東→)



15. 内容確認調査区 土層堆積状況 (南→)



16. 内容確認調査区 土層堆積状況 (南→)



17. 内容確認調査区 主郭南端盛土造成 (南→)



18. 内容確認調査区 主郭南端盛土造成 (東→)



19. 内容確認調査区 Aトレンチ北端 (南→)



20. 内容確認調査区 Aトレンチ北端 (北→)



21. 内容確認調査区 Eトレンチ (東→)



22. 内容確認調査区 Fトレンチ (東→)



23. 内容確認調査区 土層堆積状況 (東→)



24. 内容確認調査区 基本土層Ⅱ層掘り下げ(東→)



25. 内容確認調査区 埋め戻し状況 (南東→)



26. 内容確認調査区 埋め戻し状況 (北→)



27. 試掘調査区 A～Cトレンチ調査風景(東→)



28. 試掘調査区 Aトレンチ空堀検出 (西→)



29. 試掘調査区 Bトレンチ空堀検出 (北→)



30. 試掘調査区 Cトレンチ空堀堆積 (北→)



31. 試掘調査区 Aトレンチ調査風景 (西→)



32. 試掘調査区 Aトレンチ調査風景 (西→)



33. 試掘調査区 Bトレンチ堆積 (西→)



34. 試掘調査区 Cトレンチ堆積 (東→)



35. 試掘調査区 Dトレンチ (北→)



36. 試掘調査区 Eトレンチ (北→)



37. 試掘調査区 Fトレンチ (北→)



38. 試掘調査区 Gトレンチ (南→)



39. 試掘調査区 Hトレンチ (西→)



40. 試掘調査区 Iトレンチ (西→)



41. 試掘調査区 Jトレンチ (西→)



42. 試掘調査区 K~Mトレンチ (西→)



43. 内容確認調査・試掘調査 出土遺物

宮古市埋蔵文化財調査報告書一覧

番号	年度	番号	年度
1	1979	57	2002
2	1980	58	2002
3	1983	59	2003
4	1984	60	2003
5	1984	61	2003
6	1985	62	2003
7	1985	63	2004
8	1986	64	2005
9	1986	65	2006
10	1986	66	2006
11	1987	67	2006
12	1987	68	2006
13	1987	69	2006
14	1988	70	2007
15	1988	71	2007
16	1989	72	2007
17	1989	73	2007
18	1989	74	2008
19	1989	75	2008
20	1989	76	2009
21	1989	77	2010
22	1990	78	2011
23	1990	79	2012
24	1990	80	2014
25	1990	81	2014
26	1991	82	2014
27	1991	83	2015
28	1990	84	2015
29	1991	85	2015
30	1992	86	2016
31	1992	87	2016
32	1992	88	2016
33	1992	89	2016
34	1992	90	2016
35	1992	91	2016
36	1992	92	2016
37	1992	93	2016
38	1993	94	2017
39	1993	95	2017
40	1993		
41	1994		
42	1995		
43	1995		
44	1995		
45	1995		
46	1995		
47	1995		
48	1996		
49	1997		
50	1997		
51	1998		
52	1998		
53	1999		
54	1999		
55	1999		
56	2000		

報告書抄録

ふりがな	ぬまりたてあと							
書名	沼里館跡							
副書名	都市防災総合推進事業（公園整備）関係発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	宮古市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	96							
編著者名	長谷川真							
編集機関	岩手県宮古市教育委員会							
所在地	〒028-2101 岩手県宮古市茂市第2地割112番地1 TEL.0193-72-2111							
発行年月日	2018年3月30日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ぬまりたてあと 沼里館跡	岩手県宮古市 津軽石第6地割	03202	LG53-1266	39° 34' 38"	141° 55' 58"	2013.10.21 ~ 12.4 (試掘・内 容確認調査)	355㎡	都市防災総合推 進事業（公園整 備）に伴う内容 確認調査・試掘 調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
沼里館跡	城館跡	中世	掘立柱建物跡 柱穴 切土・盛土造成 焼土遺構1基 空堀跡3条	縄文土器、土師器、石器			館の主郭とされ る平場から掘立 柱建物跡を検 出。 縄張り図で空堀 とされた地点で は空堀跡を検出	

宮古市埋蔵文化財調査報告書 96

ぬま り たてあと
沼里館跡

- 都市防災総合推進事業（公園整備）関係発掘調査報告書 -
2018. 3

平成 30 年 3 月 30 日発行

発行 岩手県宮古市教育委員会
〒 028-2101 宮古市茂市第 2 地割 112 番地 1
TEL. 0193-72-2111

編集 宮古市教育委員会事務局 文化課
〒 027-0097 宮古市崎山第 1 地割 16 番地 1
TEL. 0193-65-7526

印刷 株式会社文化印刷
〒 027-0037 岩手県宮古市松山 5 地割 13 番地 6
TEL. 0193-62-4578
